

8. 男女共同参画について

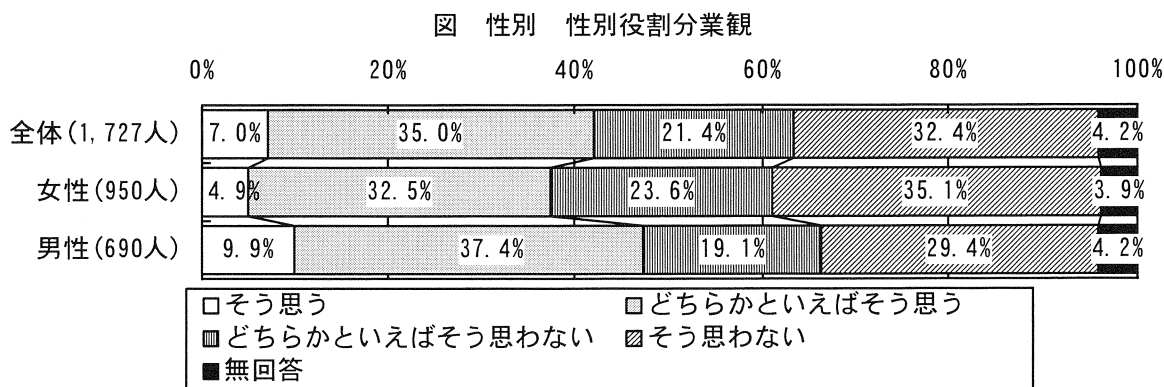
8-1 男女平等について

8-1-1 性別役割分業観

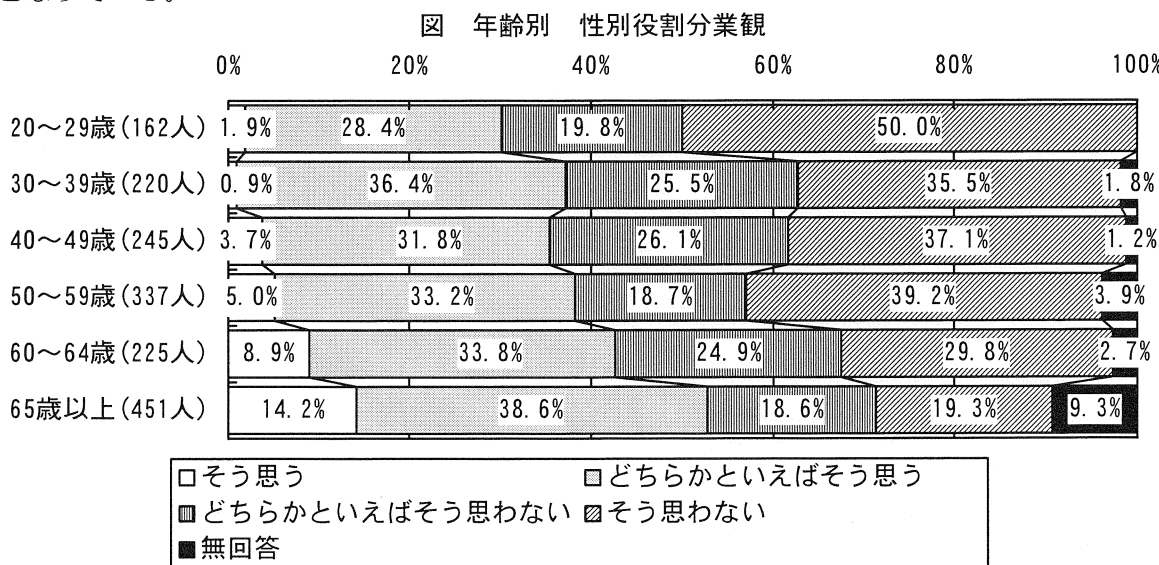
問 25 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。【あてはまるもの1つに○】

男は仕事・女は家庭、という性別役割分業観は、「どちらかといえばそう思う」が 35.0%で最も多く、次いで「そう思わない」(32.4%)、「どちらかといえばそう思わない」(21.4%)となっている。「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせる^②と 53.8%で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計^③(42.0%)を 11.8ポイント上回っている。

性別で見ると、性別役割分業否定派は男性で 48.5%、女性が 58.7%となっており、女性の方が 10.2ポイント高くなっている。



年齢別にみると、「65歳以上」を除いた全ての世代で性別役割分業否定派が肯定派を上回っている。性別役割分業否定派をみると「20～29歳」の 69.8%が最も高く、次いで「40～49歳」(63.2%)となっている。

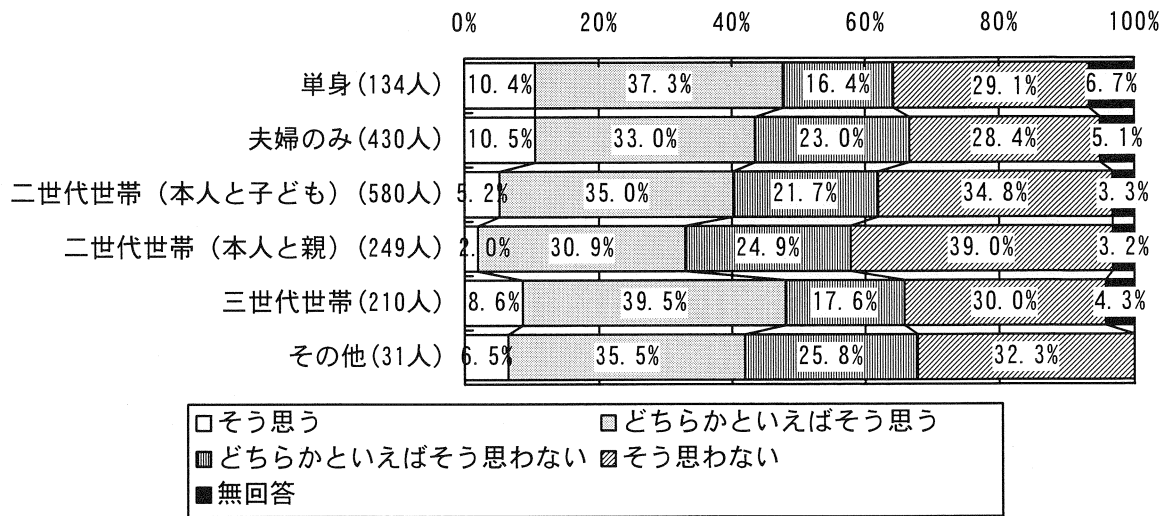


② 以下「性別役割分業否定派」と表記する。

③ 以下「性別役割分業肯定派」と表記する。

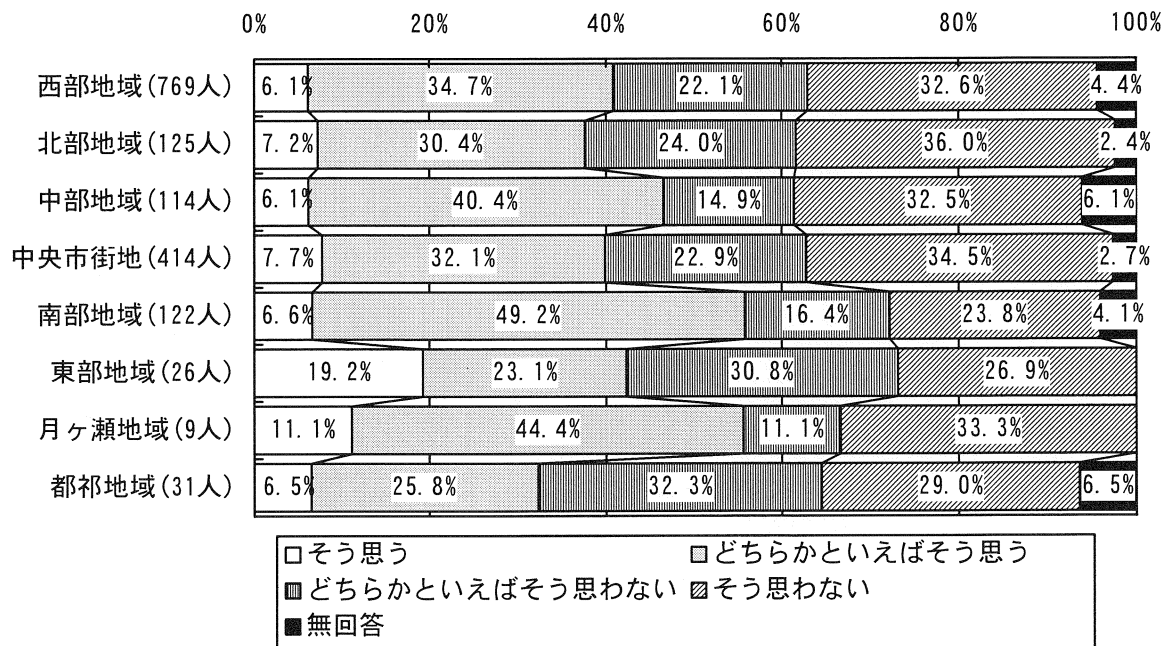
家族構成別にみると、「单身」と「三世帯世帯」で性別役割分業肯定派が否定派を上回り、それ以外の家族構成では否定派が上回っている。性別役割分業肯定派は「三世帯世帯」（48.1％）が最も高く、性別役割分業否定派は「二世帯世帯（本人と親）」（63.9％）が最も高くなっている。

図 家族構成別 性別役割分業観



地域別にみると、性別役割分業否定派は「都祁地域」が61.3％で最も高く、次いで「北部地域」（60.0％）となっている。性別役割分業肯定派は「南部地域」が55.8％で最も高くなっている。

図 地域別 性別役割分業観



8-1-2 各分野での平等感

問 26 次の各分野において、男女はどの程度平等だと思いますか。

各分野での平等感について比較した。

家庭生活の場での男女の平等感は、「平等である」と「やや平等である」の合計が 58.3%で過半数を超え、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計（36.5%）を 21.8 ポイント上回っている。

町内会や自治会など地域活動での男女の平等感は、「平等である」と「やや平等である」の合計が 57.8%と過半数を超え、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計の 35.6%を 22.2 ポイント上回っている。

冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの男女の平等感は、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が 51.7%と過半数を超えており、「平等である」と「やや平等である」の合計の 41.1%を 10.6 ポイント上回っている。

学校教育の場での男女の平等感は、「平等である」と「やや平等である」の合計が 74.1%と7割を超えており、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計の 17.1%を 57.0 ポイント上回っている。

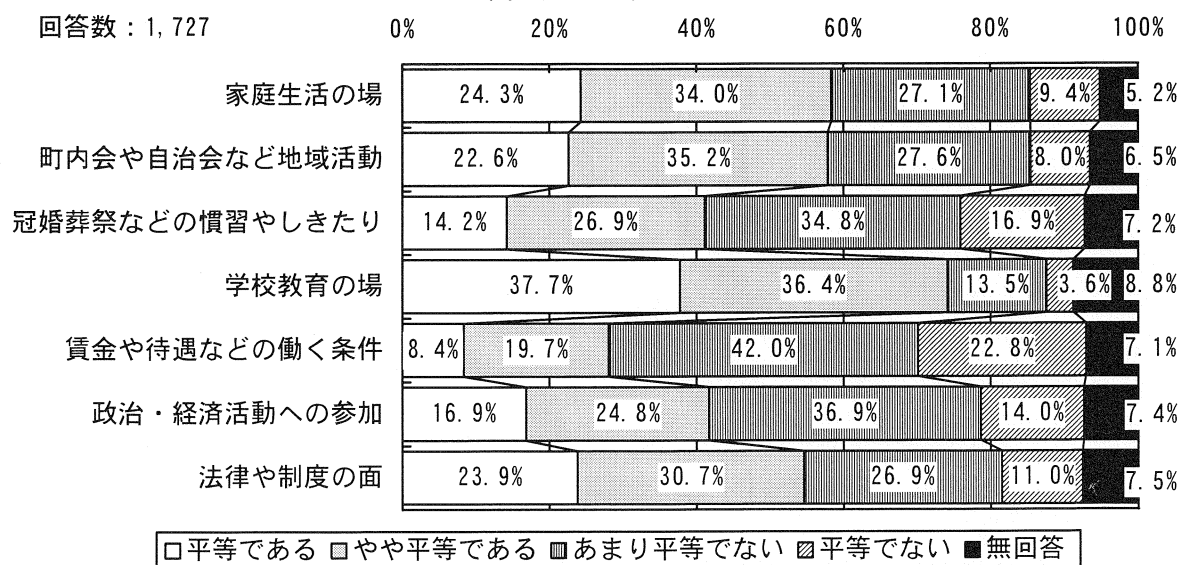
賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感は、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が 64.8%と6割を超えており、「平等である」と「やや平等である」の合計の 28.1%を 36.7 ポイント上回っている。

政治・経済活動への参加での男女の平等感は、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が 50.9%と過半数を占め、「平等である」と「やや平等である」の合計の 41.7%を 9.2 ポイント上回っている。

法律や制度の面での男女の平等感は、「平等である」と「やや平等である」の合計が 54.6%と過半数を占め、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計の 37.9%を 16.7 ポイント上回っている。

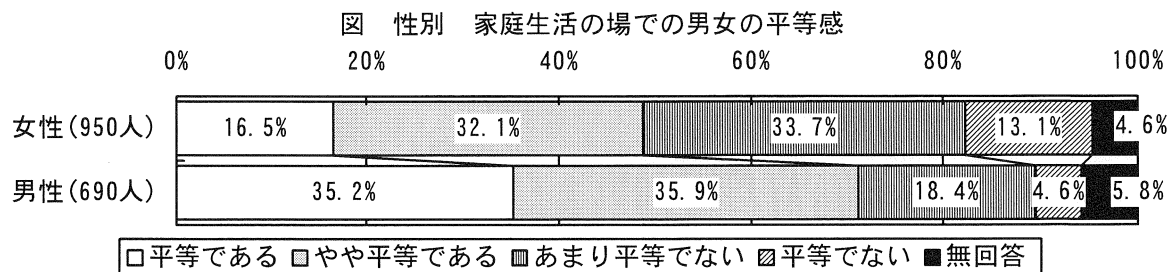
このように、「冠婚葬祭などの慣習やしきたり」と「賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感」と「政治・経済活動への参加での男女の平等感」では「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が「平等である」と「やや平等である」の合計を上回り、それ以外の分野では「平等である」と「やや平等である」の合計が「あまり平等でない」と「平等でない」の合計を上回っている。

図 男女の平等感

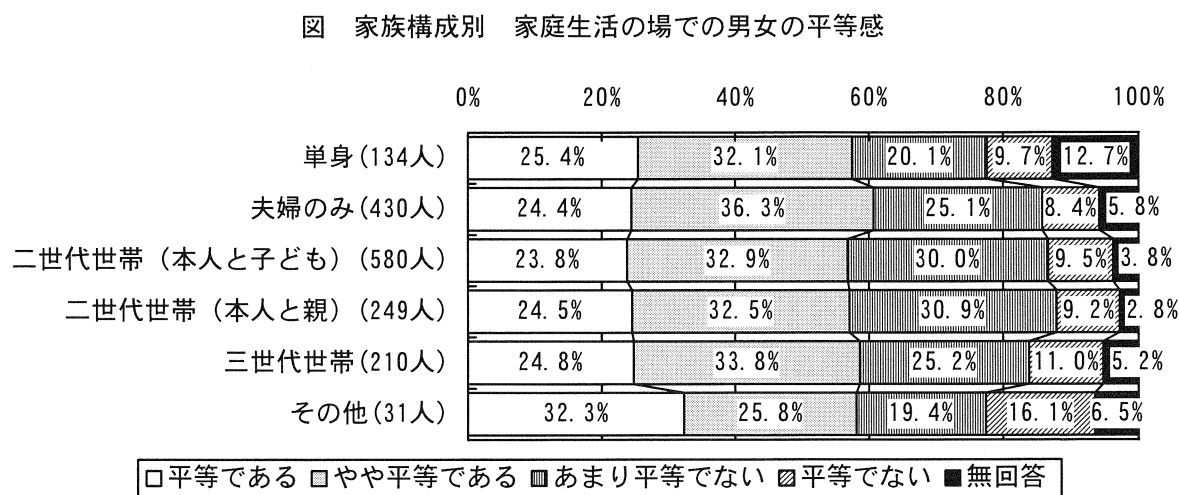


(1) 家庭生活の場での男女の平等感

性別で見ると、男性は「平等である」と「やや平等である」の合計が71.1%と多数を占めるのに対し、女性は「平等である」と「やや平等である」の合計が48.6%、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が46.8%と、意見はほぼ拮抗している。内訳では、男性は「やや平等である」(35.9%)が最も多く、次いで「平等である」(35.2%)となっているのに対し、女性は「あまり平等でない」(33.7%)が最も多く、次いで「やや平等である」(32.1%)となっている。

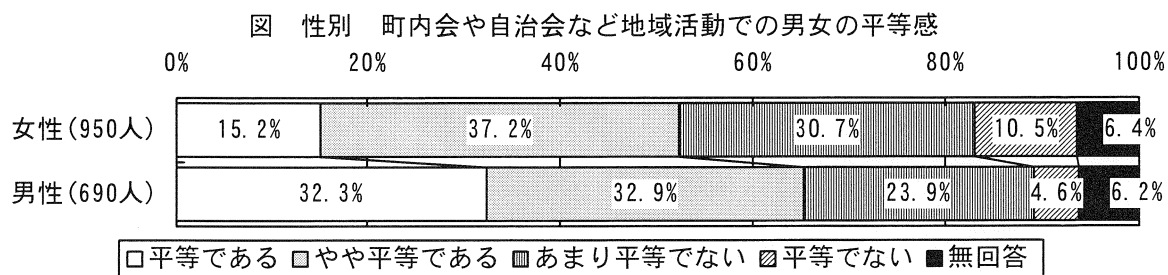


家族構成別にみると、「平等である」と「やや平等である」の合計は「夫婦のみ」が60.7%で最も高く、次いで「三世帯世帯」(58.6%)となっており、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「二世帯世帯(本人と親)」が40.1%で最も高く、次いで「二世帯世帯(本人と子ども)」(39.5%)となっている。



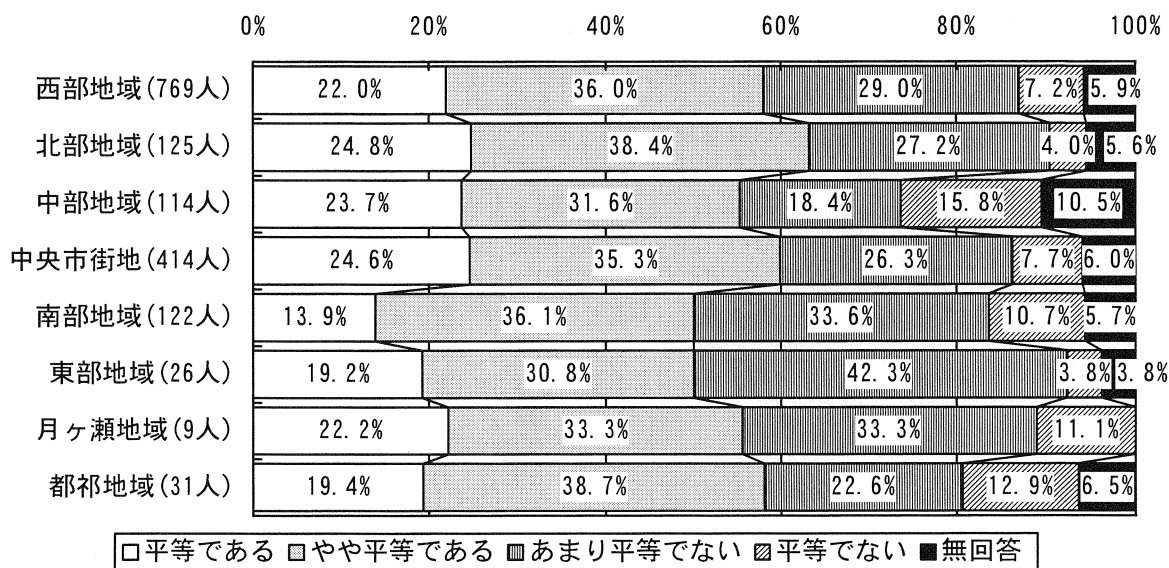
(2) 町内会や自治会など地域活動での男女の平等感

性別で見ると、「平等である」と「やや平等である」の合計は男性が65.2%で女性(52.4%)を12.8ポイント上回っている。内訳は男女とも「やや平等である」(男性32.9%、女性37.2%)が最も多くなっているが、男性では「平等である」(32.3%)が続くのに対し、女性は「あまり平等でない」(30.7%)となっている。



地域別にみると、「平等である」と「やや平等である」の合計は「北部地域」が63.2%で最も高く、次いで「中央市街地」(59.9%)となっている。「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「東部地域」が46.1%で最も多く、次いで「月ヶ瀬地域」(44.4%)となっている。

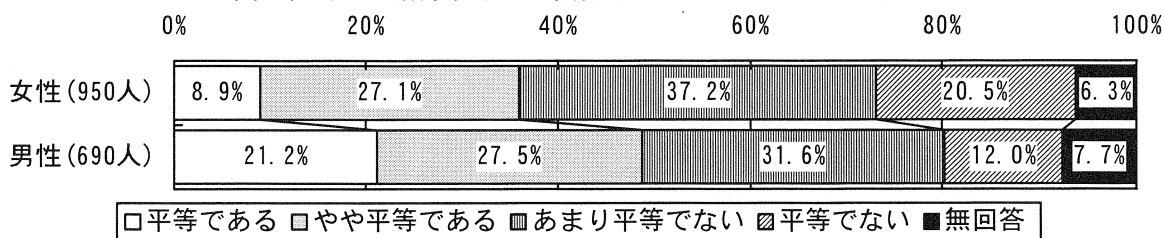
図 地域別 町内会や自治会など地域活動での男女の平等感



(3) 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの男女の平等感

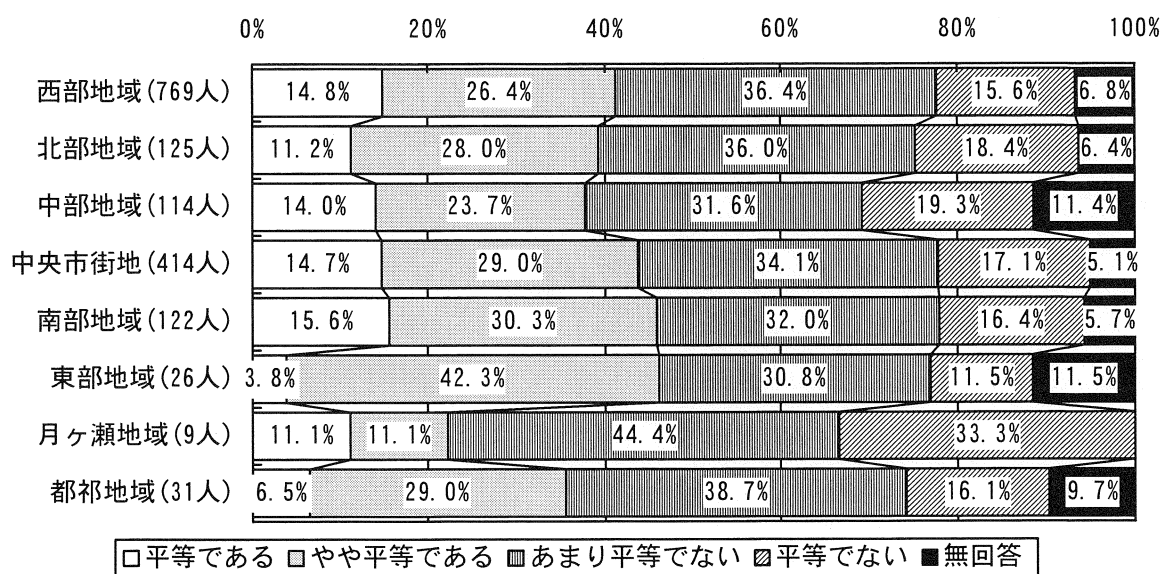
性別でみると、男性では「平等である」と「やや平等である」の合計が48.7%で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計(43.6%)を5.1ポイント上回っているが、女性では「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が57.7%と過半数を超え、男女間に大きな意識の差が見られる。内訳は、男女とも「あまり平等でない」(男性31.6%、女性37.2%)が最も多く、次いで「やや平等である」(男性27.5%、女性27.1%)となっているが、続いて男性が「平等である」(21.1%)、女性は「平等でない」(20.5%)と分かれている。

図 性別 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの男女の平等感



地域別にみると、「東部地域」以外の全ての地域で、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が「平等である」と「やや平等である」の合計を上回っている。「東部地域」では、「平等である」と「やや平等である」の合計が46.1%で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計(42.3%)を3.8ポイント上回っている。「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「月ヶ瀬地域」が77.7%で最も高く、次いで「都祁地域」(54.8%)となっている。

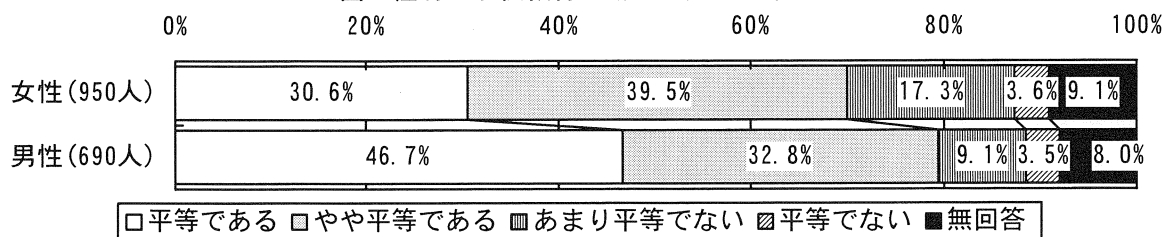
図 地域別 冠婚葬祭などの慣習やしきたりでの男女の平等感



(4) 学校教育の場での男女の平等感

性別で見ると、「平等である」と「やや平等である」の合計は男性が 79.5%で女性（70.1%）を 9.4 ポイント上回っている。内訳は、男性では「平等である」（46.7%）が最も多く、次いで「やや平等である」（32.8%）となっているが、女性では「やや平等である」（39.5%）が最も多く、次いで「平等である」（30.6%）となっている。

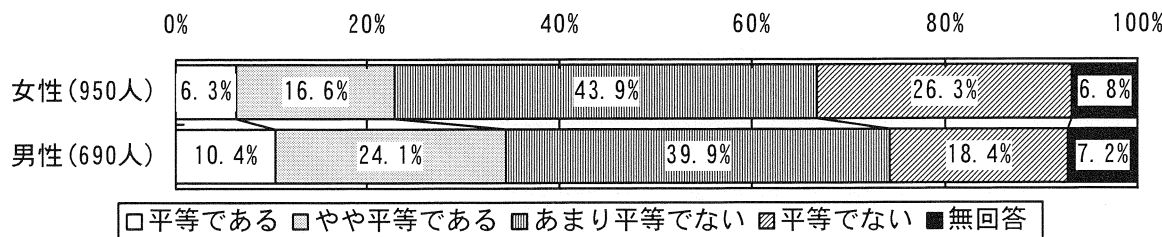
図 性別 学校教育の場での男女の平等感



(5) 賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感

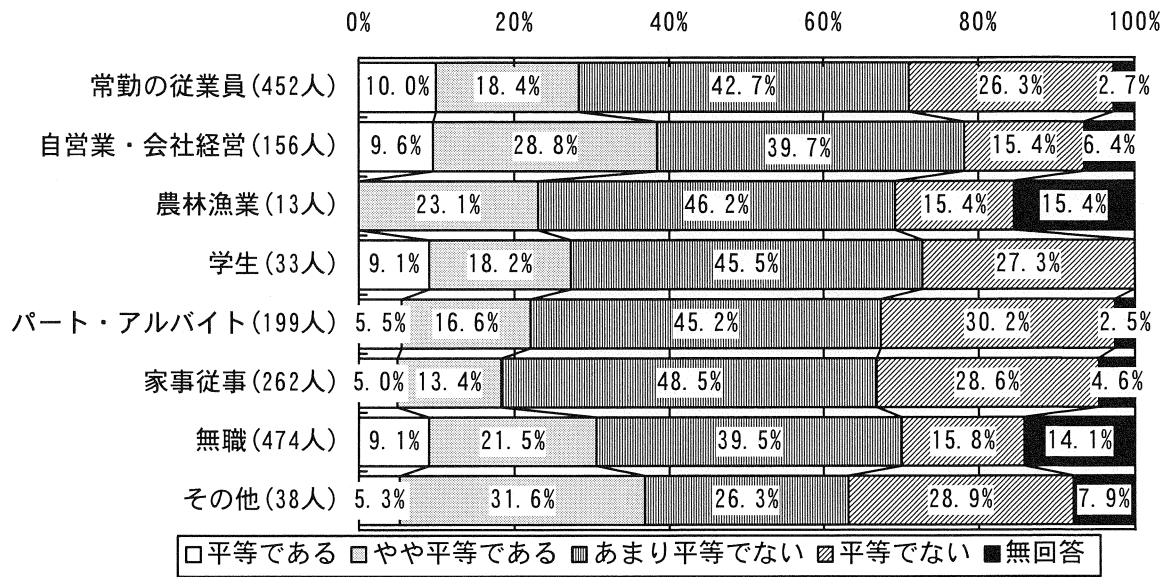
性別で見ると、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は女性が 70.2%で男性（58.3%）を 11.9 ポイント上回っている。内訳は、男女とも「あまり平等ではない」（男性 39.9%、女性 43.9%）が最も多いが、次いで男性では「やや平等である」（24.1%）に対し女性は「平等でない」（26.3%）となっている。

図 性別 賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感



職業別にみると、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「家事従事」が77.1%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」(75.4%)、「学生」(72.8%)となっている。

図 職業別 賃金や待遇などの働く条件での男女の平等感

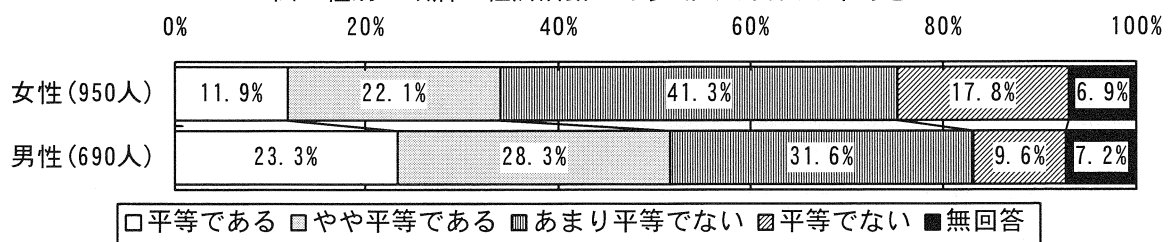


* 職業（無回答）：100人

(6) 政治・経済活動への参加での男女の平等感

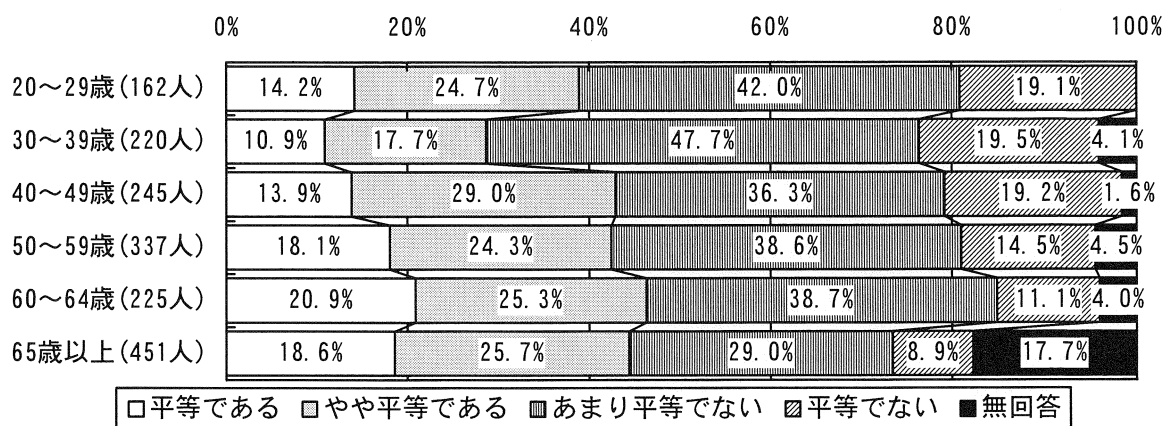
性別でみると、男性では「平等である」と「やや平等である」の合計が51.6%で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計(41.2%)を上回っているが、女性では「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が59.1%で過半数を超えている。内訳は、男女とも「あまり平等ではない」が最も多く、次いで「やや平等である」となっているが、続いて男性は「平等である」(23.3%)、女性では「平等でない」(17.8%)となっている。

図 性別 政治・経済活動への参加での男女の平等感



年齢別にみると、64歳以下の全ての世代で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が「平等である」と「やや平等である」の合計を上回っている。「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「30～39歳」が67.2%で最も高く、次いで「20～29歳」(61.1%)、「40～49歳」(55.5%)となり、以降年齢が上がるにしたがって比率が下がって「60～64歳」から過半数を割り込んでいく。

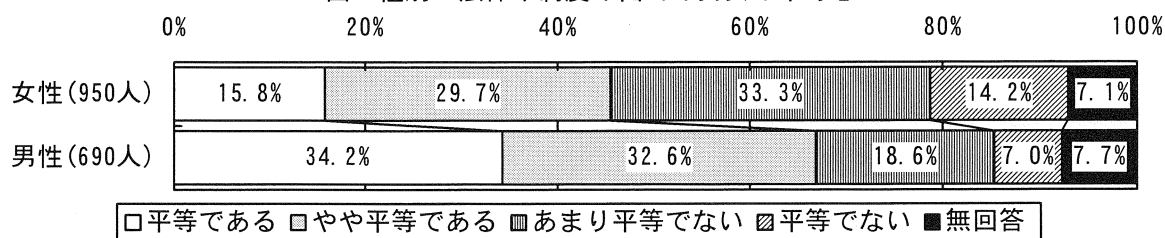
図 年齢別 政治・経済活動への参加での男女の平等観



(7) 法律や制度の面での男女の平等感

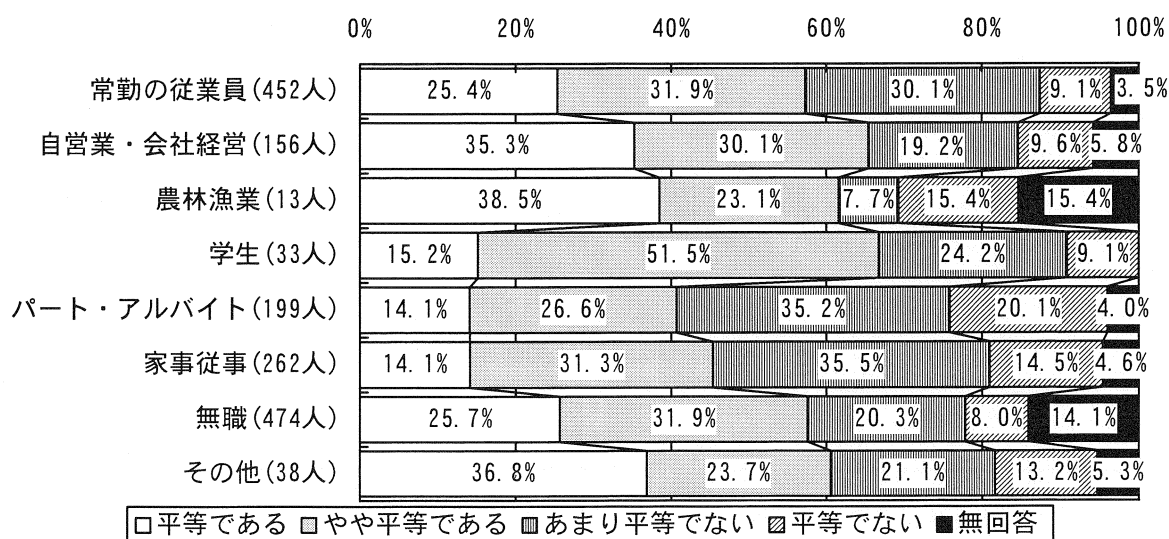
性別で見ると、男性では「平等である」と「やや平等である」の合計が66.8%で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計(25.6%)を上回っているが、女性では「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が47.5%で「平等である」と「やや平等である」の合計(45.5%)を上回っている。内訳は、男性では「平等である」が34.2%で最も多く、次いで「やや平等である」(32.6%)となっているが、女性では「あまり平等でない」が33.3%で最も多く、次いで「やや平等である」(29.7%)となっている。

図 性別 法律や制度の面での男女の平等感



職業別にみると、「あまり平等でない」と「平等でない」の合計は「パート・アルバイト」が55.3%で最も高く、次いで「家事従事」(50.0%)となっており、この2つの職業で「あまり平等でない」と「平等でない」の合計が「平等である」と「やや平等である」の合計を上回っている。他の職業では「平等である」と「やや平等である」の合計が6割前後を占め、特に「学生」(66.7%)、「自営業・会社経営」(65.4%)が高くなっている。

図 職業別 法律や制度の面での男女の平等感

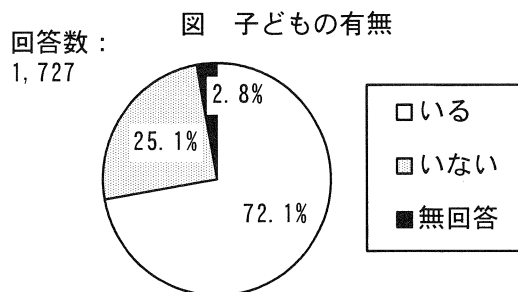


8-2 子育てについて

8-2-1 子どもの有無

問 27 あなたには子どもがいますか。【あてはまるもの1つに○】

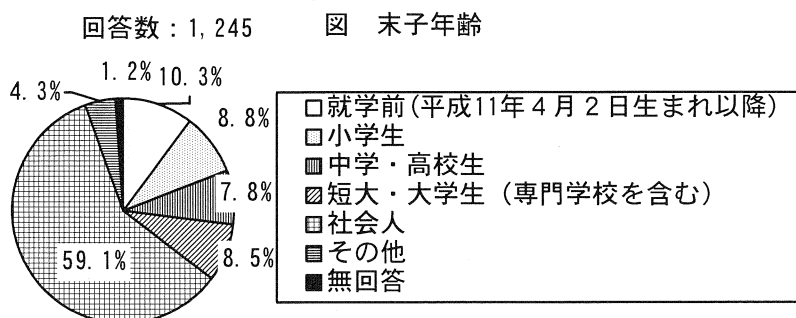
子どもの有無は、「いる」が72.1%で「いない」が25.1%となっている。



8-2-2 末子年齢

問 27-1 問 27で「1. いる」と答えた方におたずねします。1番下の子どもについてお答えください。【あてはまるもの1つに○】

末子年齢は、「社会人」が59.1%で過半数を超えており、次いで「就学前（平成11年4月2日生まれ以降）」（10.3%）、「小学生」（8.8%）となっている。



8-2-3 子育てについての考え方

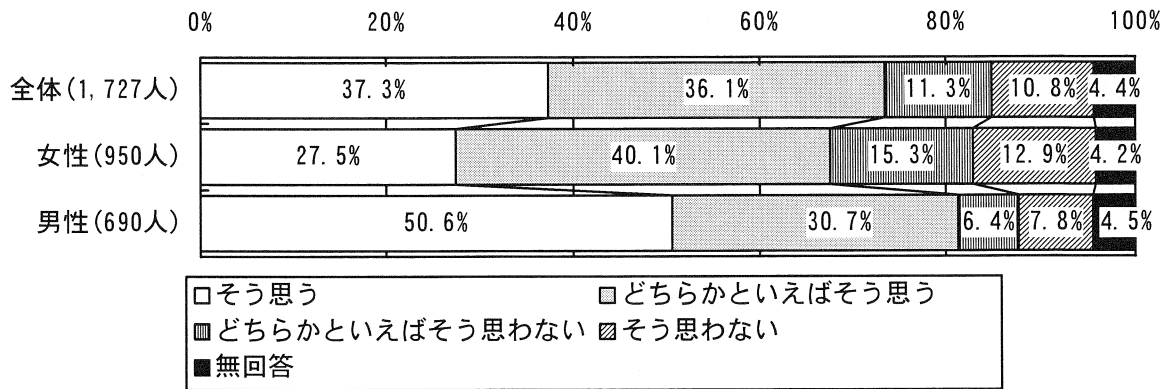
問 28 子育てについての次のような考え方を、あなたはどのように思いますか。それぞれの項目ごとに数字を1つ選んで○をつけてください

(1) 女の子は女らしく、男の子は男らしくしつけるのがよい

女の子は女らしく、男の子は男らしくしつけるのがよいという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が73.4%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」（22.1%）を51.3ポイント上回っている。

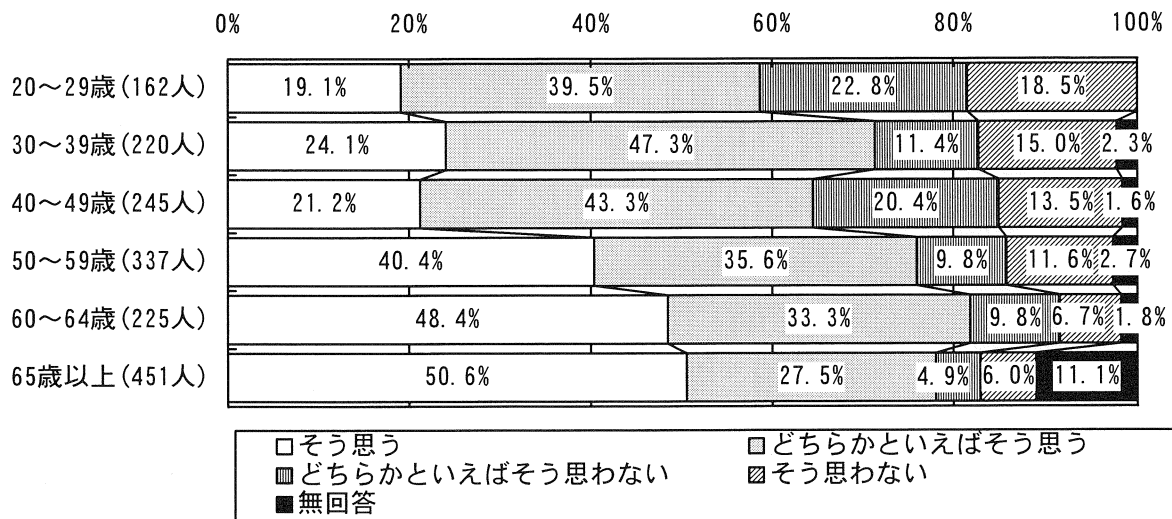
性別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は男性が81.3%で女性（67.6%）を13.7ポイント上回っている。内訳は、男性では「そう思う」が50.6%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」（30.7%）となっているが、女性では「どちらかといえばそう思う」（40.1%）、次いで「そう思う」（27.5%）となっている。

図 性別 女の子は女らしく、男の子は男らしくしつけるのがよい



年齢別にみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は「60～64歳」が81.7%で最も高く、次いで「65歳以上」(78.1%)、「50～59歳」(76.0%)となっており、高齢者や熟年層にその考え方が多い。

図 年齢別 女の子は女らしく、男の子は男らしくしつけるのがよい

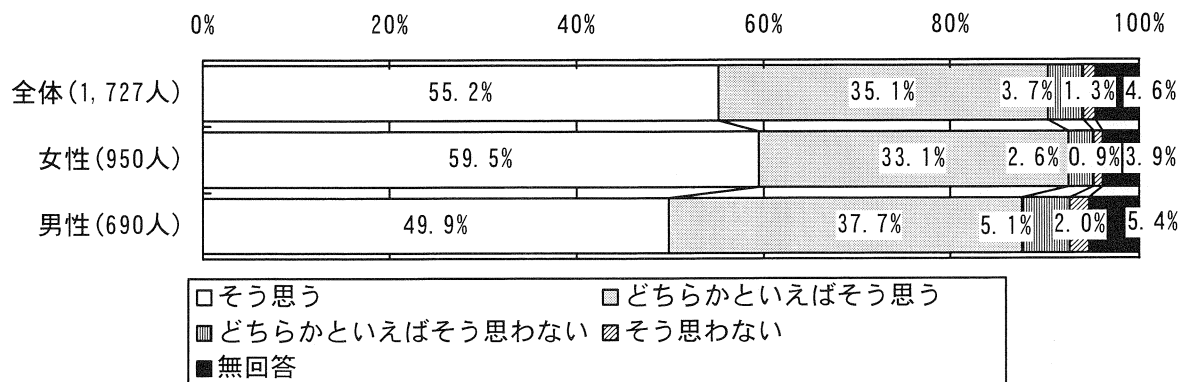


(2) 女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい

女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよいという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が90.3%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」は5.0%とごく少数になっている。

性別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は男性87.6%、女性は92.6%でどちらも9割前後を占めるが、女性の方が5.0ポイント高くなっている。

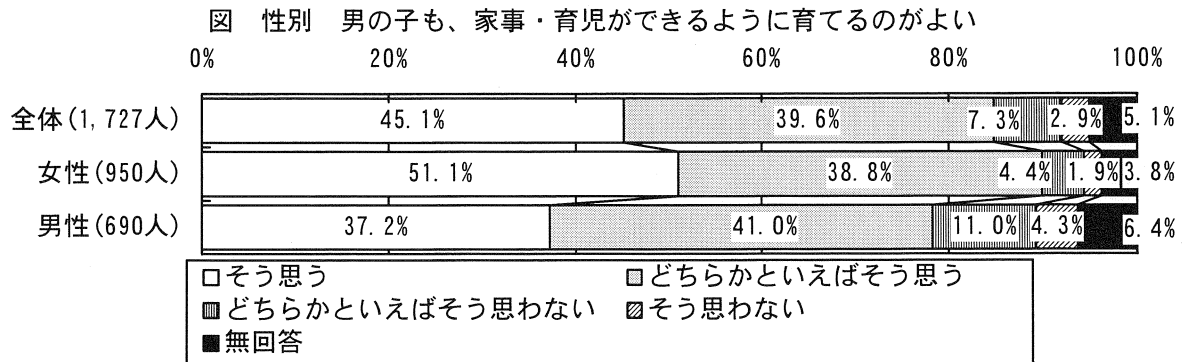
図 性別 女の子も、経済的自立ができるように育てるのがよい



(3) 男の子も、家事・育児ができるように育てるのがよい

男の子も、家事・育児ができるように育てるのがよいという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が84.7%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」(10.2%)を74.5ポイント上回っている。

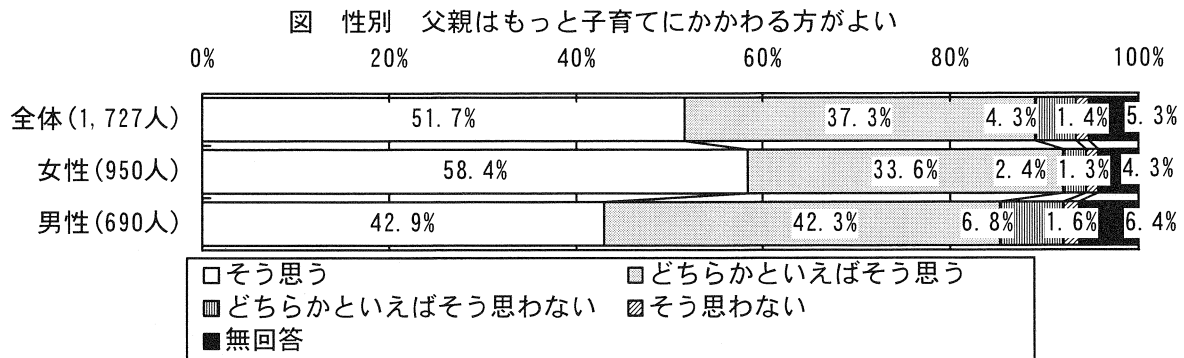
性別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は女性が89.9%で男性(78.2%)を11.7ポイント上回っている。内訳は、男性では「どちらかといえばそう思う」が41.0%で最も多く、次いで「そう思う」(37.2%)となっているが、女性では「そう思う」(51.1%)が過半数を超え、次いで「どちらかといえばそう思う」(38.8%)となっている。



(4) 父親はもっと子育てにかかわる方がよい

父親はもっと子育てにかかわる方がよいという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は89.0%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」は5.7%とごく少数になっている。

性別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は女性が92.0%で男性(85.2%)を6.8ポイント上回っている。

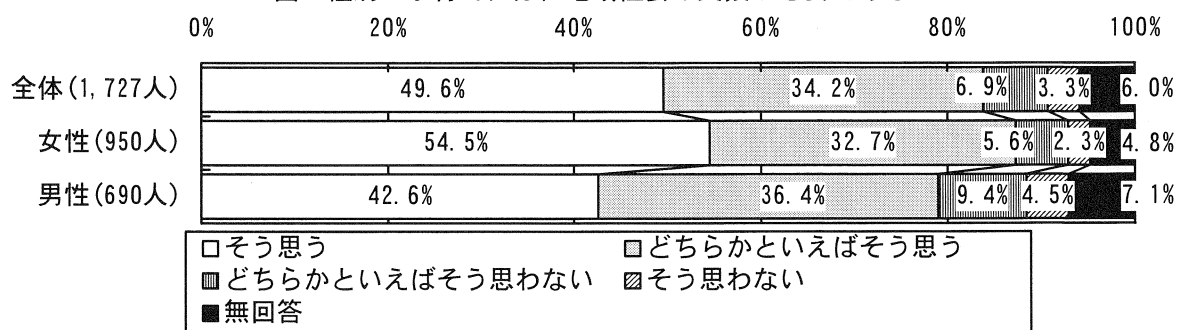


(5) 子育てには、地域社会の支援が必要である

子育てには、地域社会の支援が必要であるという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が83.8%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」(10.2%)を73.6ポイント上回っている。

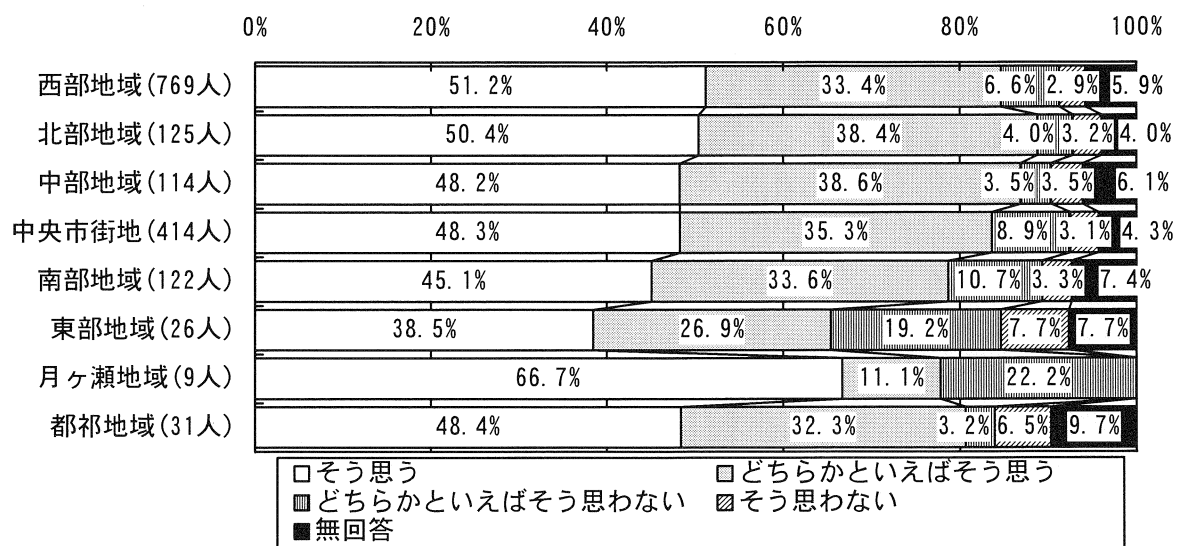
性別で見ると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」は女性が87.2%で男性(79.0%)を8.2ポイント上回っている。

図 性別 子育てには、地域社会の支援が必要である



地域別にみると、いずれの地域でも「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が6割以上を占め、なかでも「北部地域」(88.8%)が最も高く、次いで「中部地域」(86.8%)となっている。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」は「東部地域」(26.9%)が最も高く、次いで「月ヶ瀬地域」(22.2%)となっている。

図 地域別 子育てには、地域社会の支援が必要である

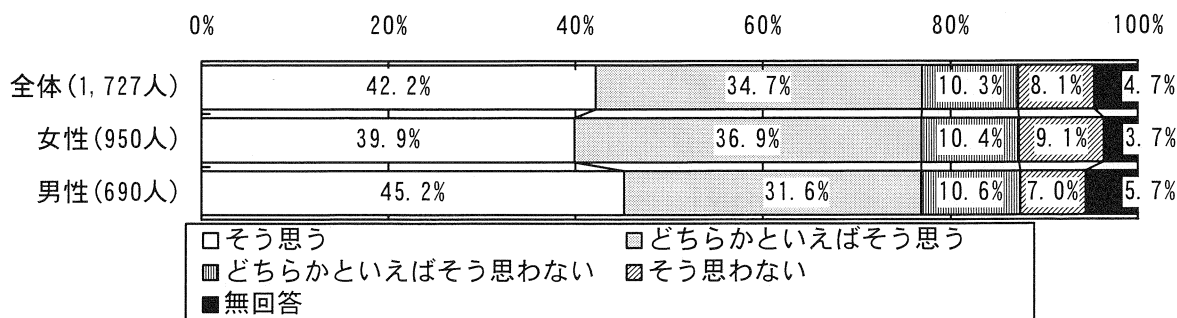


(6) 3歳までは、母親が子育てに専念すべきである

3歳までは、母親が子育てに専念すべきであるという考え方は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」が76.9%で、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「否定派」(18.4%)を58.5ポイント上回っている。

性別でみると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「肯定派」全体でみると男女同率の76.8%になっているが、「そう思う」は男性が45.2%で女性(39.9%)を5.3ポイント上回っている。

図 性別 3歳までは、母親が子育てに専念すべきである



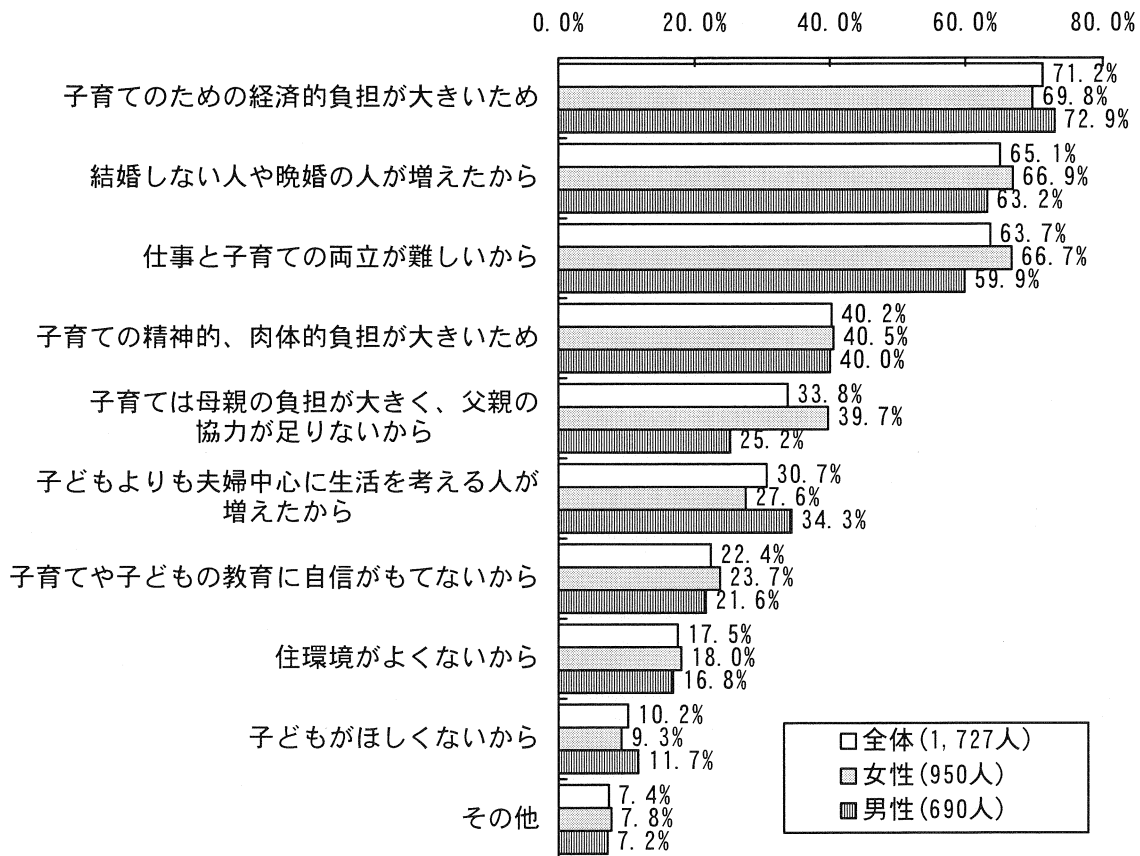
8-2-4 出生率の低下原因

問 29 最近、出生率が低下し、少子化が進んでいますが、どのようなことが原因だと思いますか。【あてはまるものすべてに○】

出生率の低下原因については、「子育てのための経済的負担が大きいため」が 71.2%で最も多く、次いで「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」(65.1%)、「仕事と子育ての両立が難しいから」(63.7%)となっている。

性別で回答の多い順の第3位までみると、男女ともに順位は全体と同様の傾向にあるものの、「子育てのための経済的負担が大きいため」は男性が 72.9%で女性(69.8%)を上回っており、「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」と「仕事と子育ての両立が難しいから」は女性が男性を上回っている。その他の項目では、「子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから」が、女性が 39.7%で男性(25.2%)を 14.5ポイント上回っている。また、「子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えたから」では、男性が 34.3%で女性(27.6%)を 6.7ポイント上回っている。

図 性別 出生率の低下原因(複数回答)



年齢別に回答の多い順をみると、いずれの世代も「子育てのための経済的負担が大きいため」が最も多くなっているが、上位第2、3位に世代間で違いがみられる。「20～29歳」では「仕事と子育ての両立が難しいから」が「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」を上回って第2位であるが、「30～39歳」で両者が同率2位となり、40歳以上の世代では「結婚しない人や晩婚の人が増えたから」が「仕事と子育ての両立が難しいから」を上回って第2位となっている。

表 年齢別 出生率の低下原因（複数回答）

	有効回答数	回答の多い順の上位				
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20～29歳	162	子育てのための経済的負担が大きいため	仕事と子育ての両立が難しいから	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため
		80.2%	75.9%	66.0%	43.2%	35.2%
30～39歳	220	子育てのための経済的負担が大きいため	仕事と子育ての両立が難しいから	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから
		80.0%	62.7%	62.7%	40.5%	34.1%
40～49歳	245	子育てのための経済的負担が大きいため	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	仕事と子育ての両立が難しいから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから
		71.4%	68.2%	65.3%	43.7%	32.2%
50～59歳	337	子育てのための経済的負担が大きいため	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	仕事と子育ての両立が難しいから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子育ては母親の負担が大きく、父親の協力が足りないから
		67.4%	67.1%	65.0%	41.2%	36.5%
60～64歳	225	子育てのための経済的負担が大きいため	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	仕事と子育ての両立が難しいから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えたから
		72.0%	71.6%	61.8%	40.4%	35.1%
65歳以上	451	子育てのための経済的負担が大きいため	結婚しない人や晩婚の人が増えたから	仕事と子育ての両立が難しいから	子育ての精神的、肉体的負担が大きいため	子どもよりも夫婦中心に生活を考える人が増えたから
		65.6%	60.5%	59.4%	39.5%	31.0%

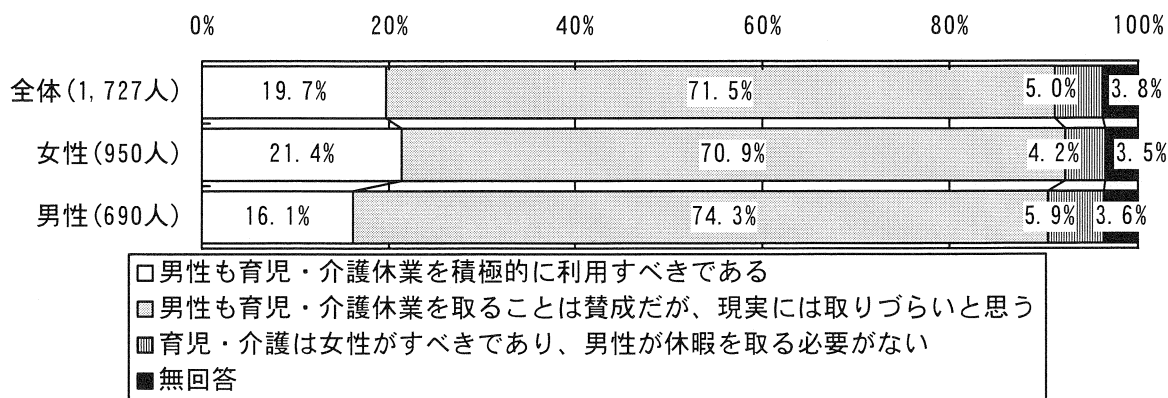
8-2-5 男性の育児・介護休業取得に対する考え

問 30 男性も育児・介護休業が取れますが、このことについてどうお考えですか。【あてはまるもの1つに○】

男性の育児・介護休業取得に対する考えは、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」が71.5%で最も多く、次いで「男性も育児・介護休業を積極的に利用すべきである」（19.7%）となっている。

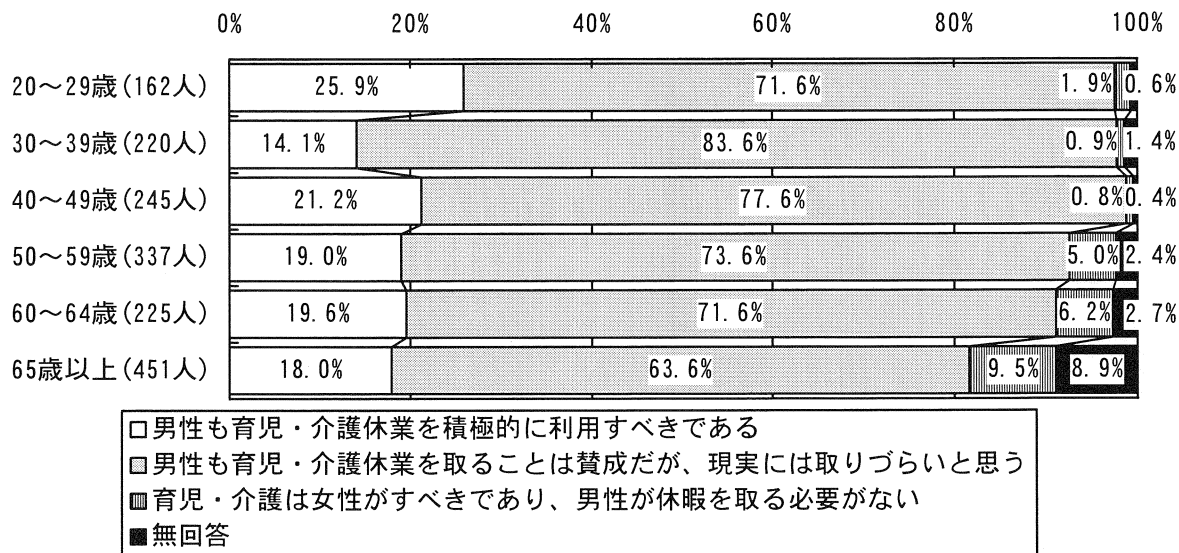
性別で見ると、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」は男性が74.3%で女性（70.9%）を3.4ポイント上回っており、「男性も育児・介護休業を積極的に利用すべきである」は女性が21.4%で男性（16.1%）を5.3ポイント上回っている。

図 性別 男性の育児・介護休業取得に対する考え



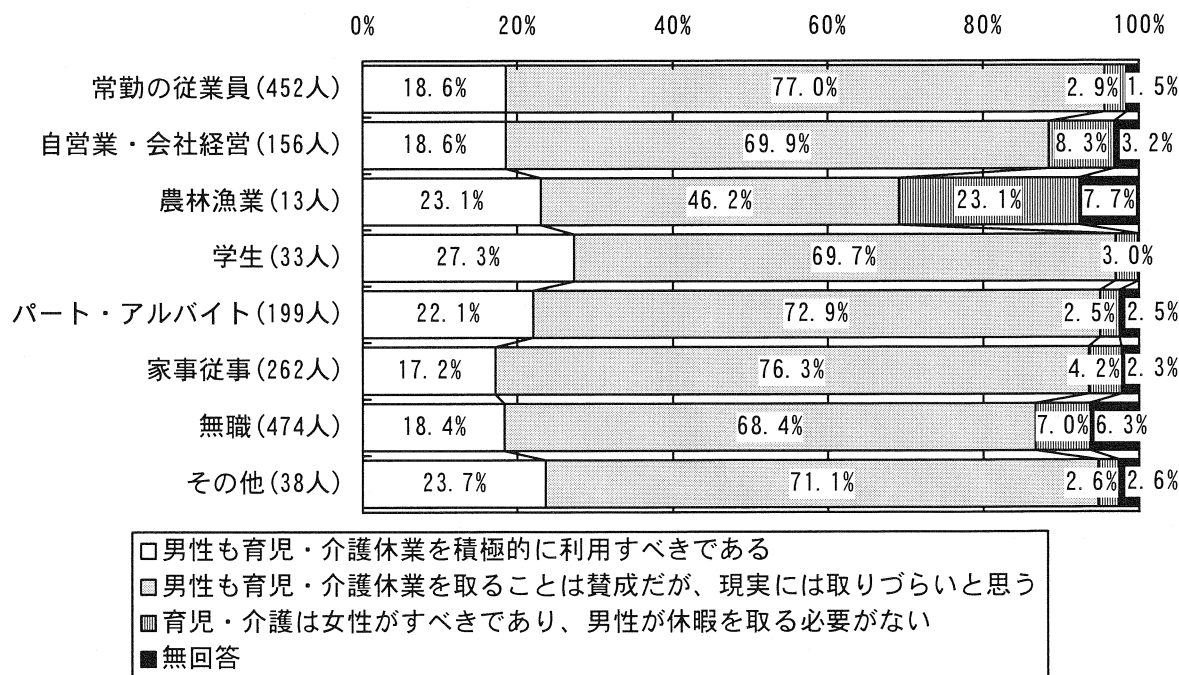
年齢別にみると、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」は「30～39歳」が83.6%で最も高く、次いで「40～49歳」（77.6%）となっている。「男性も育児・介護休業を積極的に利用すべきである」は「20～29歳」が25.9%で最も高くなっている。「育児・介護は女性がすべきであり、男性が休暇を取る必要がない」は「65歳以上」が9.5%で最も高くなっている。

図 年齢別 男性の育児・介護休業取得に対する考え



職業別にみると、「男性も育児・介護休業を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う」は「常勤の従業員」が77.0%で最も高く、次いで「家事従事」（76.3%）となっている。「男性も育児・介護休業を積極的に利用すべきである」は「学生」（27.3%）が最も多くなっている。

図 職業別 男性の育児・介護休業取得に対する考え



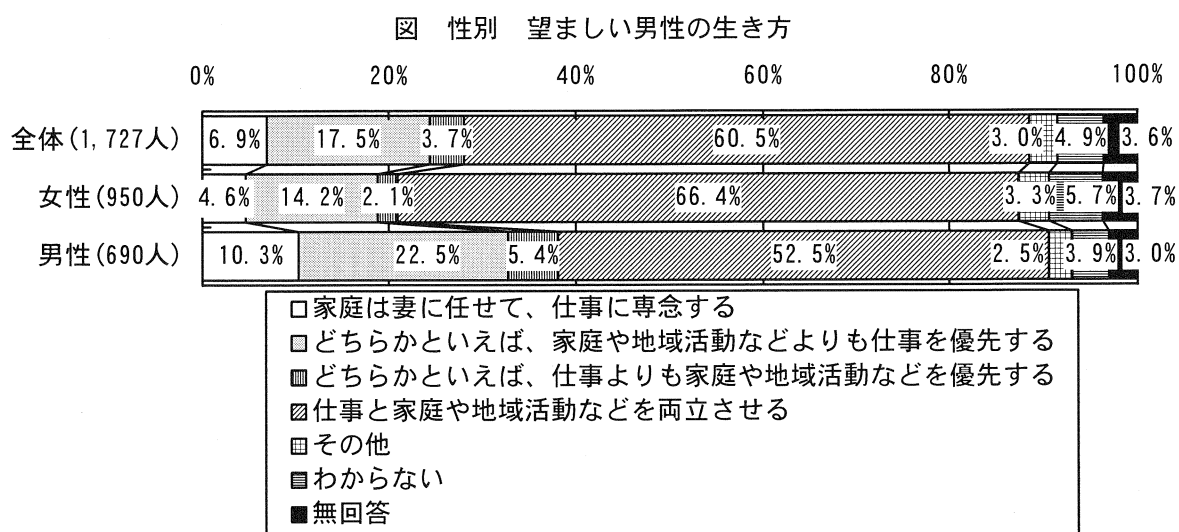
8-3 生活と仕事

8-3-1 望ましい男性の生き方

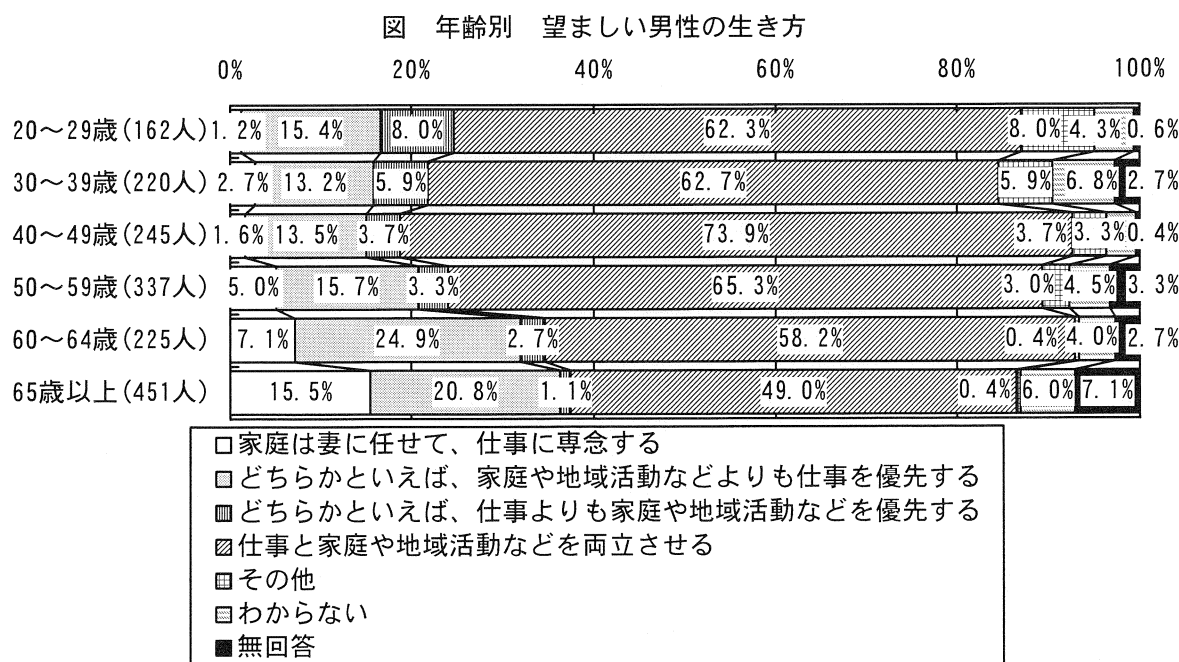
問 31 これからの男性の生き方として、次のどれが望ましいと思いますか。【あてはまるもの1つに○】

望ましい男性の生き方は、「仕事と家庭や地域活動などを両立させる」が60.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば、家庭や地域活動などよりも仕事を優先する」(17.5%)となっている。

性別で見ると、「仕事と家庭や地域活動などを両立させる」は女性が66.4%で男性(52.5%)を13.9ポイント上回っている。また「どちらかといえば、家庭や地域活動などよりも仕事を優先する」は男性が22.5%で女性(14.2%)を8.3ポイント上回っている。



年齢別にみると、「仕事と家庭や地域活動などを両立させる」は「40～49歳」が73.9%で最も高く、次いで「50～59歳」(65.3%)、「30～39歳」(62.7%)となっている。「どちらかといえば、家庭や地域活動などよりも仕事を優先する」は「60～64歳」(24.9%)、「家庭は妻に任せて、仕事に専念する」は「65歳以上」(15.5%)がそれぞれ最も高くなっている。

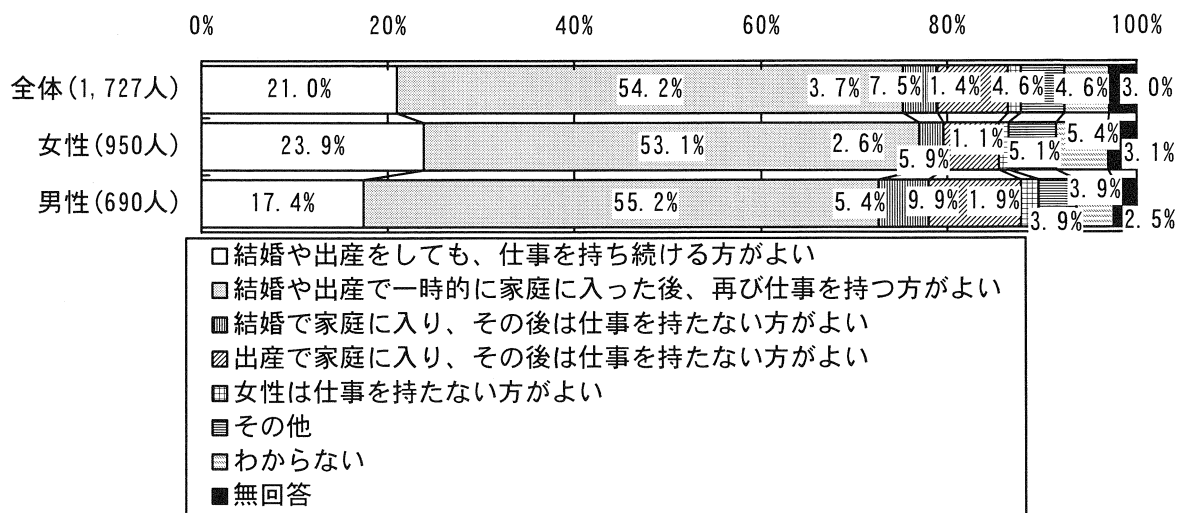


8-3-2 女性が収入を得る仕事を持つことについて

問 32 女性が収入を得る仕事を持つことについて、次のどれが望ましいと思いますか。【あてはまるもの1つに○】

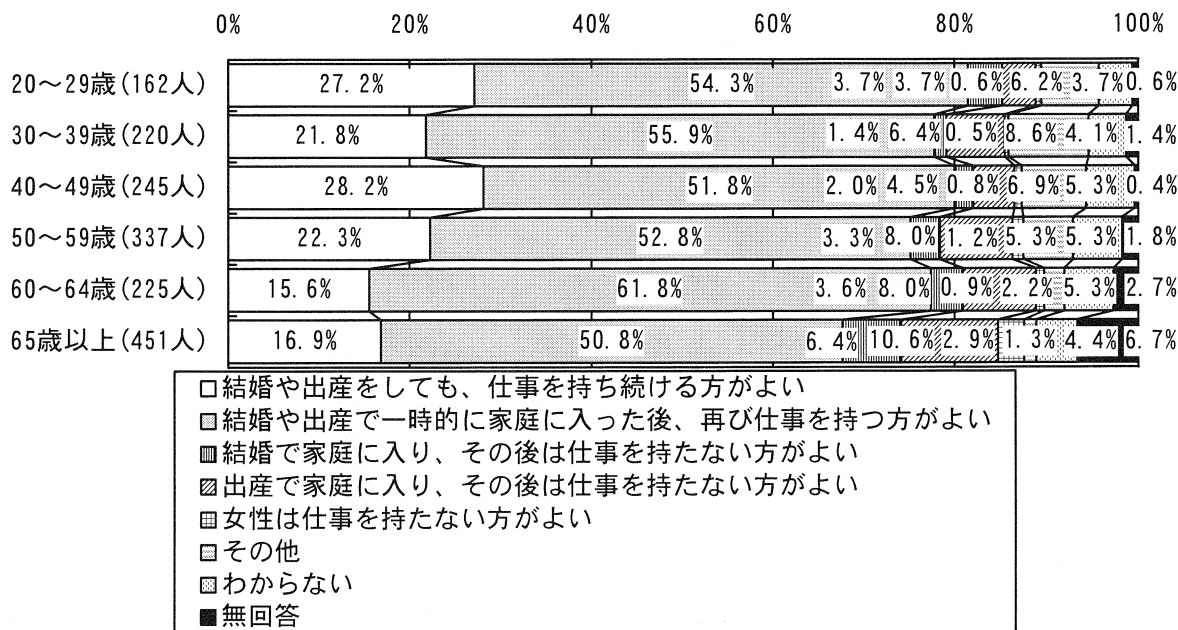
女性が収入を得る仕事を持つことについては、「結婚や出産で一時的に家庭に入った後、再び仕事を持つ方がよい」が54.2%で過半数を超えており、次いで「結婚や出産をしても、仕事を持ち続ける方がよい」(21.0%)となっている。性別でみると、「結婚や出産をしても、仕事を持ち続ける方がよい」は女性が23.9%で男性(17.4%)を6.5ポイント上回っている。

図 性別 女性が収入を得る仕事を持つことについて



年齢別にみると、「結婚や出産で一時的に家庭に入った後、再び仕事を持つ方がよい」は「60～64歳」が61.8%で最も高く、次いで「30～39歳」(55.9%)となっている。「結婚や出産をしても、仕事を持ち続ける方がよい」は「40～49歳」が28.2%で最も高く、次いで「20～29歳」(27.2%)となっている。「結婚で家庭に入り、その後は仕事を持たない方がよい」、「出産で家庭に入り、その後は仕事を持たない方がよい」、「女性は仕事を持たないほうの方がよい」は、いずれも「65歳以上」で最も高くなっている。

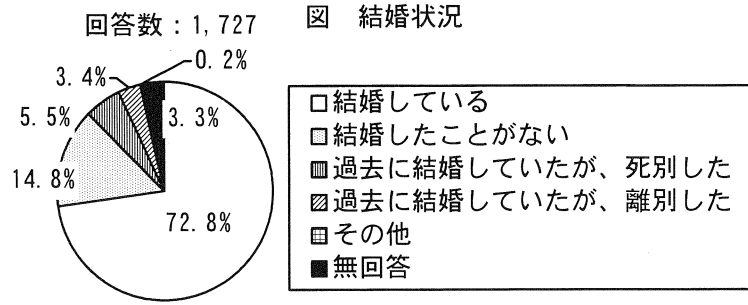
図 年齢別 女性が収入を得る仕事を持つことについて



8-3-3 結婚状況

問 33 あなたは結婚していますか。【あてはまるもの1つに○】

結婚状況は、「結婚している」が72.8%、「結婚したことがない」(14.8%)と「過去に結婚していたが、死別した」(5.5%)と「過去に結婚していたが、離別した」(3.4%)を合わせた現在結婚していない人が23.7%となっている。

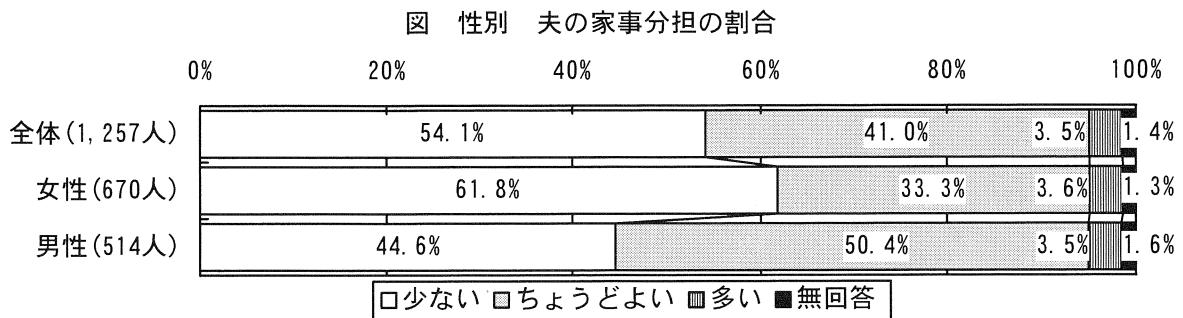


8-3-4 夫の家事分担の割合

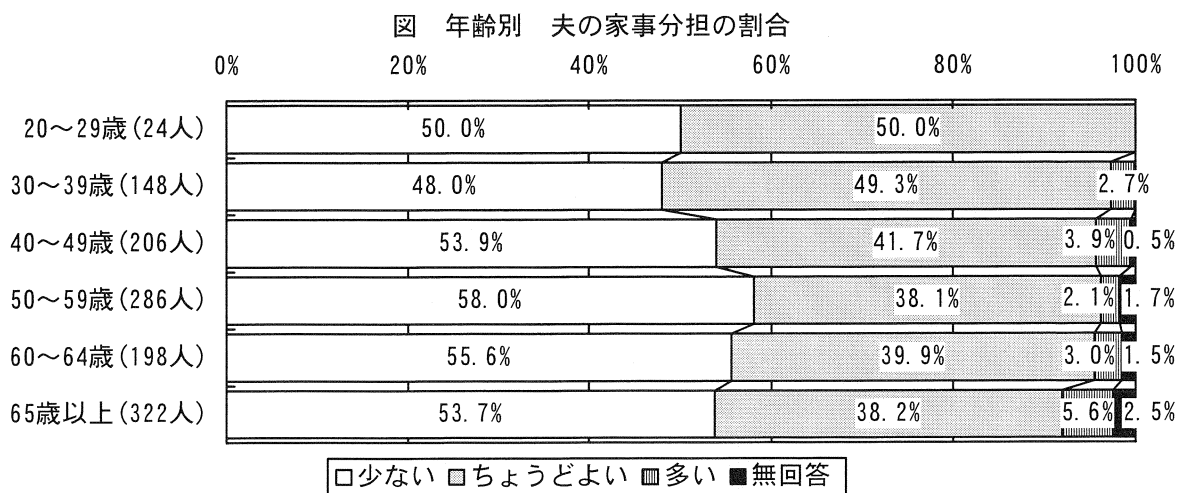
問 33-1 問 33で「1. 結婚している」と答えた方におたずねします。夫婦間における夫の家事分担の割合についてどのように思いますか。【あてはまるもの1つに○】

夫の家事分担の割合は、「少ない」が54.1%で過半数を超え、次いで「ちょうどよい」(41.0%)となっており、「多い」は3.5%にとどまっている。

性別で見ると、男性は「ちょうどよい」が50.4%で最も多く、次いで「少ない」(44.6%)となっているが、女性は「少ない」が61.8%で最も多く、次いで「ちょうどよい」(33.3%)となっている。



年齢別にみると、「少ない」は「50～59歳」が58.0%で最も高く、次いで「60～64歳」(55.6%)となっている。「ちょうどよい」は「20～29歳」が50.0%で最も高く、次いで「30～39歳」(49.3%)となっている。



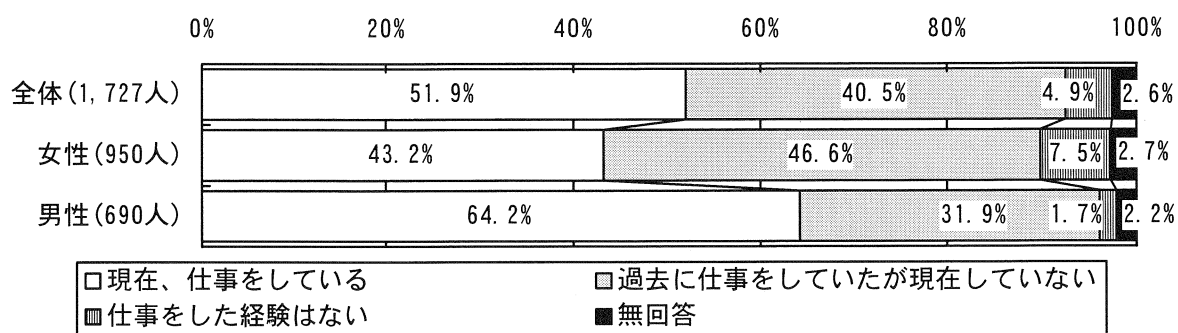
8-3-5 就業状況

問 34 あなたは現在、収入を得る仕事をしていますか。また、経験はありますか。【あてはまるもの1つに○】

就業状況は、「現在、仕事をしている」が51.9%で過半数を超え、「過去に仕事をしていたが現在していない」(40.5%)と「仕事をした経験はない」(4.9%)を合わせた非就業者(45.4%)を6.5ポイント上回っている。

性別で見ると、「現在、仕事をしている」は男性が64.2%で女性(43.2%)を21ポイント上回っている。「過去に仕事をしていたが現在していない」は女性が46.6%で男性(31.9%)を14.7ポイント上回っている。

図 性別 就業状況



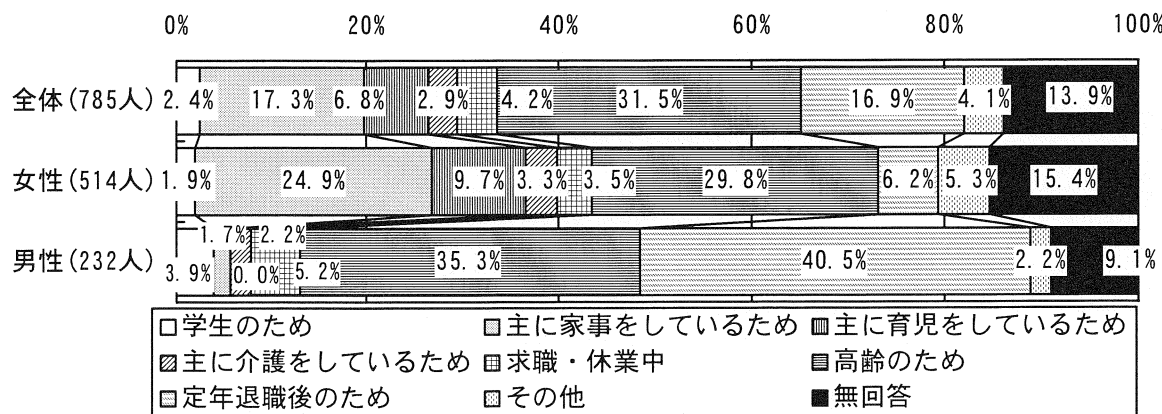
8-3-6 仕事をしていない理由

問 34-1 問 34 で「2. 過去に仕事をしていたが現在はしていない」または「3. 仕事をした経験はない」と答えた方におたずねします。現在、仕事をしていない理由は何ですか。【あてはまるもの1つに○】

就業状況が「過去に仕事をしていたが現在していない」または「仕事をした経験はない」方の内、仕事をしていない理由は「高齢のため」が31.5%で最も多く、次いで「主に家事をしているため」(17.3%)、「定年退職後のため」(16.9%)となっている。

性別で見ると、男性では「定年退職後のため」が40.5%で最も多く、次いで「高齢のため」(35.3%)となっているが、女性は「高齢のため」が29.8%で最も多く、次いで「主に家事をしているため」(24.9%)となっている。

図 性別 仕事をしていない理由



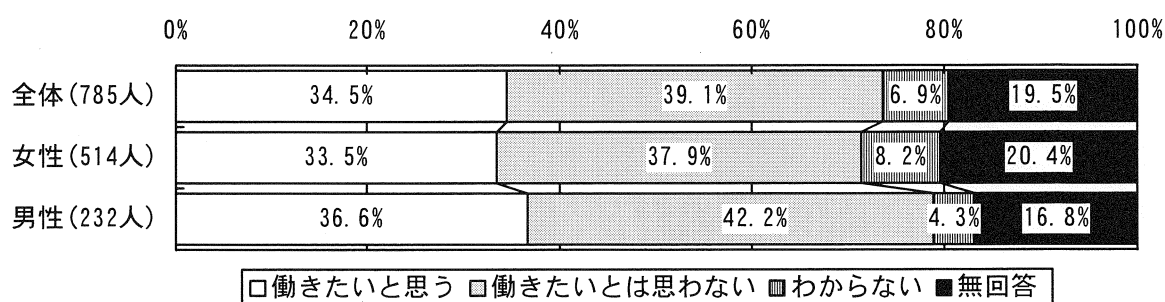
8-3-7 就業希望

問 34-2 問 34 で「2. 過去に仕事をしてきたが現在はしていない」または「3. 仕事をした経験はない」と答えた方におたずねします。あなたは、パートタイムの仕事も含めて、適当な仕事があれば働きたいと思いませんか。【あてはまるもの1つに○】

就業状況が「過去に仕事をしてきたが現在はしていない」または「仕事をした経験はない」方の内、就業希望は、「働きたいとは思わない」が 39.1%で最も多く、「働きたいと思う」(34.5%)を 4.6 ポイント上回っている。

性別でみると、「働きたいとは思わない」は、男性が 42.2%、女性が 37.9%となっている。

図 性別 就業希望



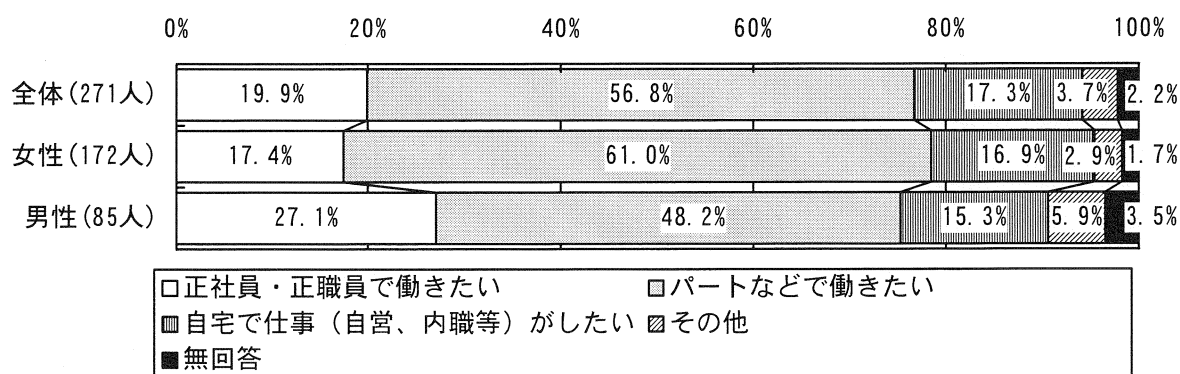
8-3-8 希望する雇用体系

問 34-2-1 問 34 で「2. 過去に仕事をしてきたが現在はしていない」または「3. 仕事をした経験はない」と答え、問 34-2 で「1. 働きたいと思う」と答えた方におたずねします。どのように働きたいですか。【あてはまるもの1つに○】

就業状況が「過去に仕事をしてきたが現在はしていない」または「仕事をした経験はない」方で「働きたいと思う」方の内、希望する雇用体系は「パートなどで働きたい」が 56.8%で過半数を超えており、次いで「正社員・正職員で働きたい」(19.9%)、「自宅で仕事(自営、内職等)がしたい」(17.3%)となっている。

性別でみると、「パートなどで働きたい」は女性が 61.0%で男性 (48.2%) を 12.8 ポイント上回っている。「正社員・正職員で働きたい」は男性が 27.1%で女性 (17.4%) を 9.7 ポイント上回っている。

図 性別 希望する雇用体系



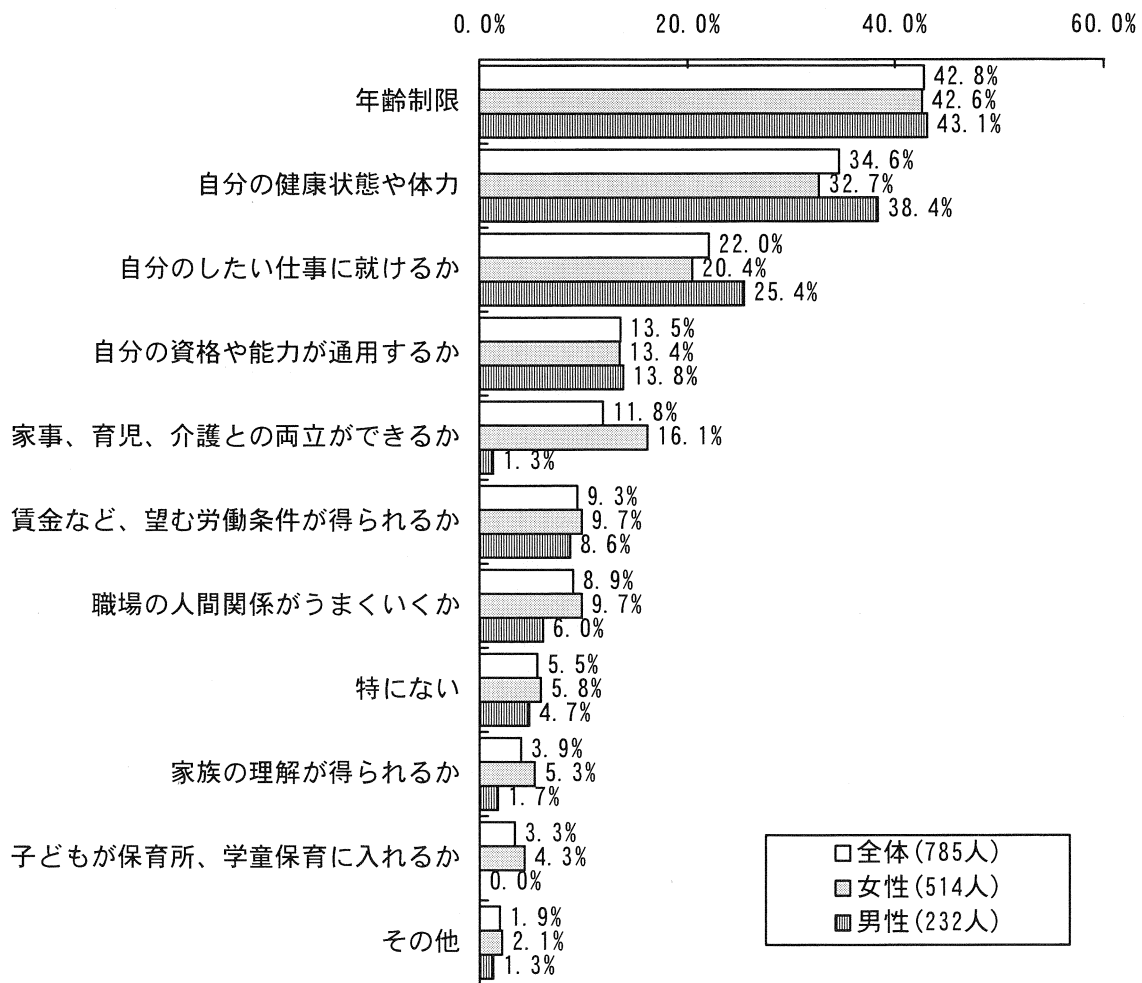
8-3-9 働く時の気付き

問 34-3 問 34 で「2. 過去に仕事をしてきたが現在はしていない」または「3. 仕事をした経験はない」と答えた方におたずねします。再び、あるいは新規に働きたいと思ったとき、気付きなことは何ですか。【あてはまるもの3つ以内で○】

就業状況が「過去に仕事をしてきたが現在はしていない」または「仕事をした経験はない」方の内、働くときの気付きは「年齢制限」が42.8%で最も多く、次いで「自分の健康状態や体力」(34.6%)、「自分のしたい仕事に就けるか」(22.0%)となっている。

性別でみると、回答の多い順の上位3位までは全体と同様であるが、第4位は男性では「自分の資格や能力が通用するか」、女性では「家事、育児、介護との両立ができるか」となっている。「家事、育児、介護との両立ができるか」は、女性は16.1%で男性(1.3%)を14.8ポイント上回っている。

図 性別 働く時の気付き (3つ以内で複数回答)



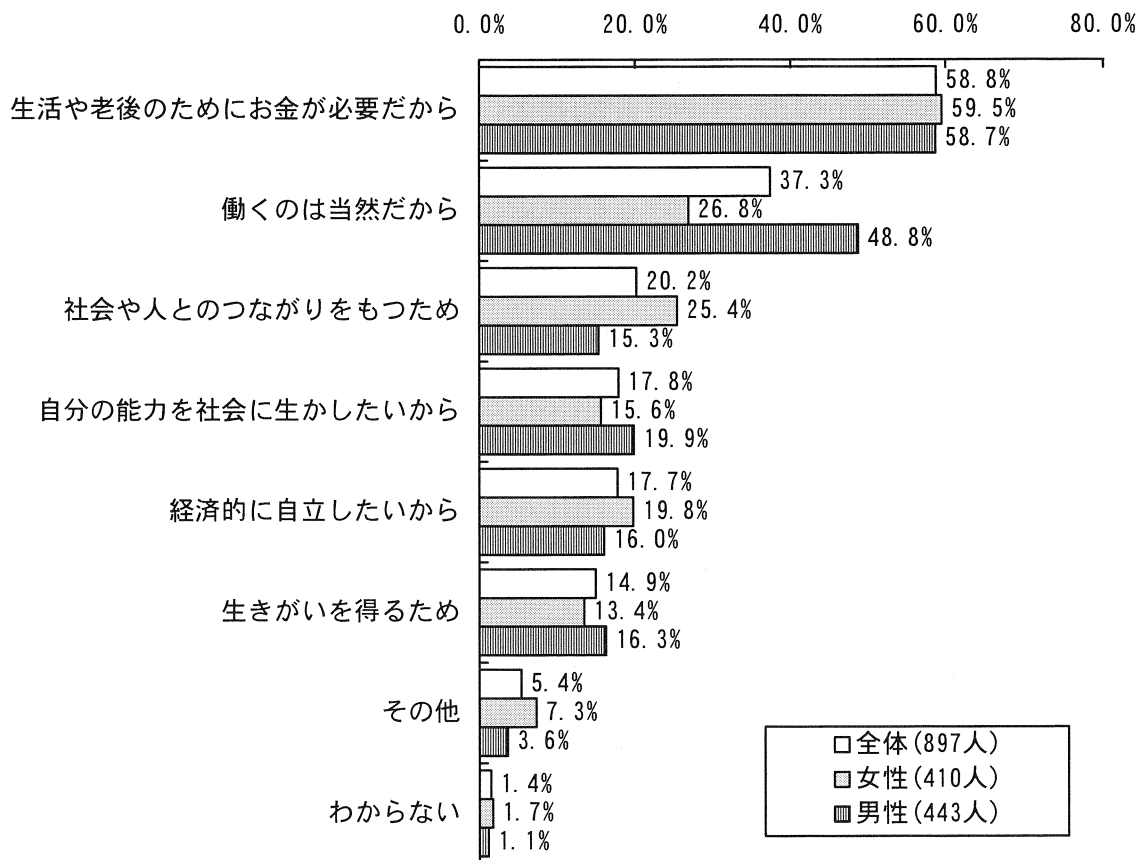
8-3-10 仕事をしている主な理由

問 35 問 34で「1. 現在、仕事をしている」と答えた方におたずねします。あなたが仕事をしている主な理由をお選びください。【あてはまるもの2つ以内で○】

就業状況が「現在、仕事をしている」方の内、仕事をしている理由は「生活や老後のためにお金が必要だから」が58.8%で最も多く、次いで「働くのは当然だから」(37.3%)、「社会や人とのつながりをもつため」(20.2%)となっている。

性別で回答の多い順をみると、男女とも「生活や老後のためにお金が必要だから」が最も多く、次いで「働くのは当然だから」となっているが、第3位が男性では「自分の能力を社会に生かしたいから」、女性では「社会や人とのつながりをもつため」となっている。また、「働くのは当然だから」は、男性が48.8%で女性(26.8%)を22.0ポイント上回っている。

図 性別 仕事をしている主な理由 (2つ以内で複数回答)



8-4 人権と暴力

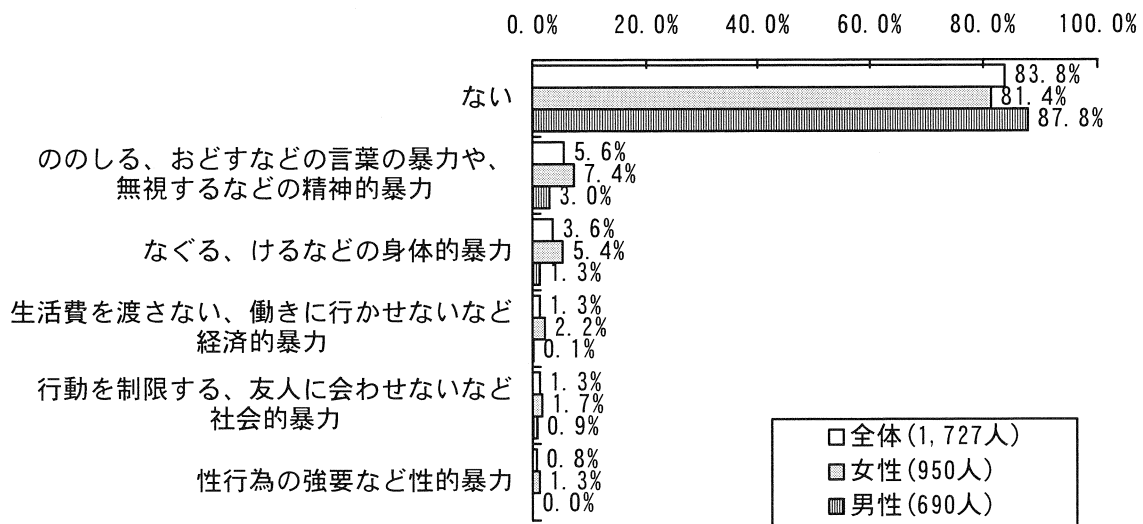
8-4-1 ドメスティック・バイオレンスを受けた経験

問 36 次にあげるドメスティック・バイオレンス（配偶者や恋人など身近な人からの暴力）を受けたことがありますか。【あてはまるものすべてに○】

ドメスティック・バイオレンスを受けた経験は、「ない」を除けば「ののしる、おどすなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神的暴力」が 5.6%で最も多く、次いで「なぐる、けるなどの身体的暴力」（3.6%）となっている。なお、「ない」は 83.8%となっている。

性別でみると、「ののしる、脅すなどの言葉の暴力や、無視するなどの精神的暴力」が男性 3.0%に対し女性 7.4%、「なぐる、けるなどの身体的暴力」で男性 1.3%に対し女性 5.4%というように、女性のドメスティック・バイオレンスを受けた経験が全体的に男性より高くなっている。特に、「性行為の強要など性的暴力」は、女性（1.3%）にのみ回答が見られる。「ない」は、男性が 87.8%で女性（81.4%）を 6.4ポイント上回っている。

図 性別 ドメスティック・バイオレンスを受けた経験（複数回答）



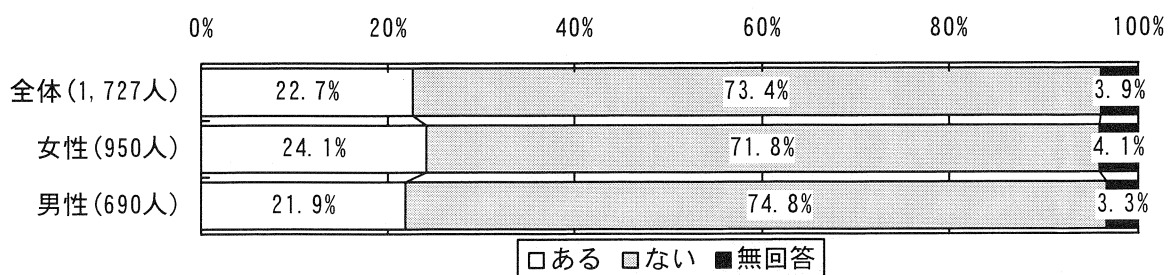
8-4-2 ドメスティック・バイオレンスの見聞き

問 37 あなたの身近なところで、問 36 のような暴力を見たり、聞いたりしたことはありますか。【あてはまるもの 1 つに○】

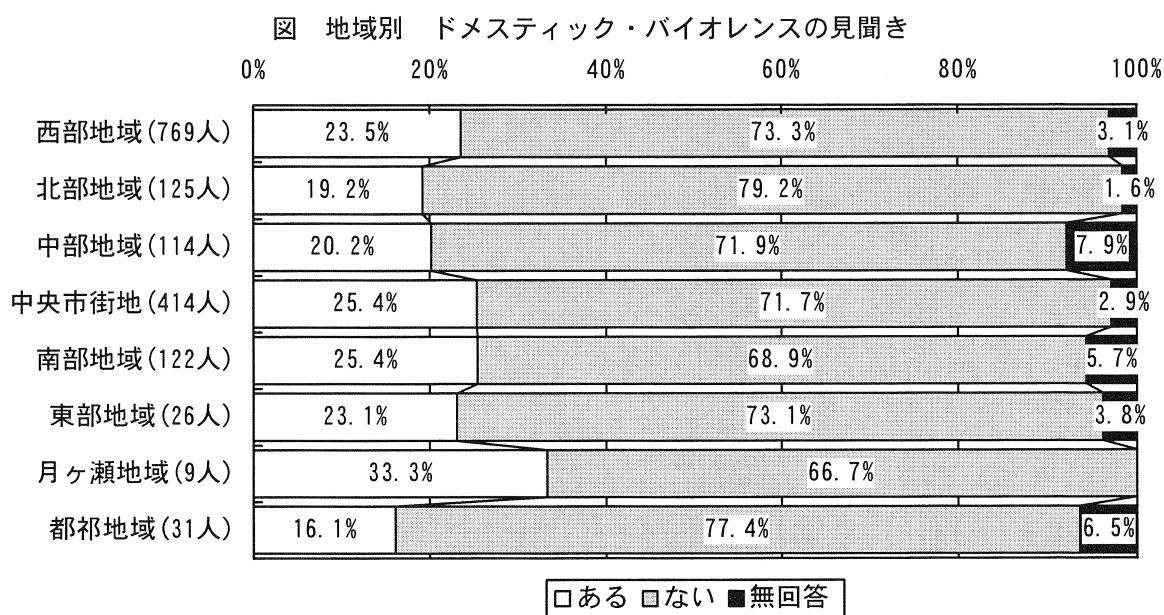
ドメスティック・バイオレンスの見聞きは、「ない」が 73.4%で「ある」(22.7%)を 50.7ポイント上回っている。

性別でみると、「ない」は男性が 74.8%で女性（71.8%）を 3ポイント上回っている。

図 性別 ドメスティック・バイオレンスの見聞き



地域別にみると、「ある」は「月ヶ瀬地域」が33.3%で最も高く、次いで「中央市街地」と「南部地域」の25.4%となっている。



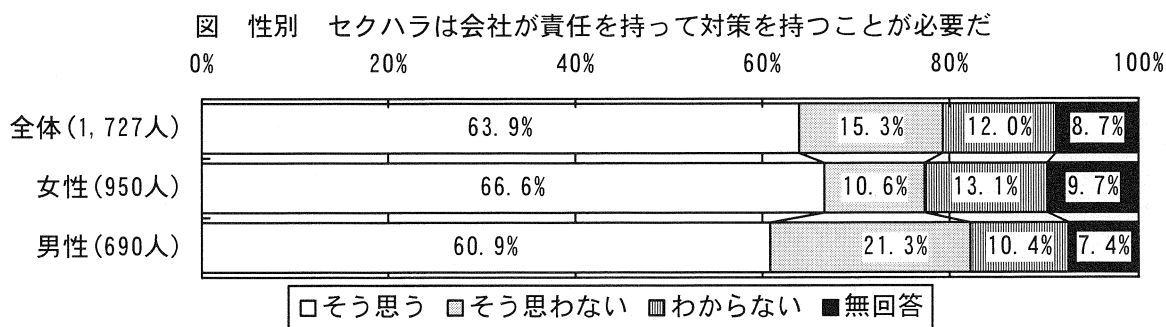
8-4-3 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）についての考え方

問 38 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）についてあなたはどのようにお考えですか。

(1) セクハラは会社が責任を持って対策を持つことが必要だ

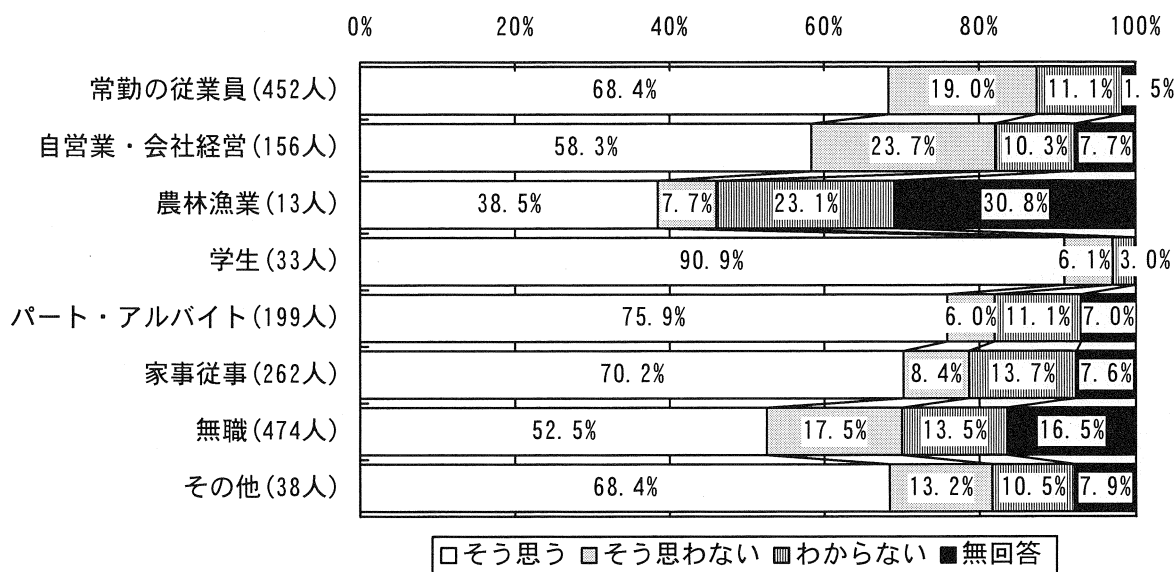
セクハラは会社が責任を持って対策を持つことが必要だという考え方は、「そう思う」が63.9%で「そう思わない」(15.3%)を48.6ポイント上回っている。

性別でみると、「そう思う」は女性が66.6%で男性(60.9%)を5.7ポイント上回っている。



職業別にみると、「そう思う」は「学生」が90.9%で最も高く、次いで「パート・アルバイト」(75.9%)、「家事従事」(70.2%)となっている。「そう思わない」は「自営業・会社経営」が23.7%で最も高く、次いで「常勤の従業員」(19.0%)となっている。

図 職業別 セクハラは会社が責任を持って対策を持つことが必要だ

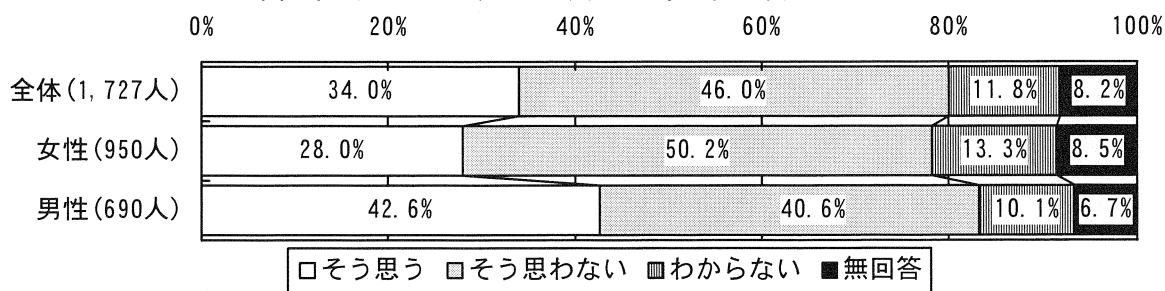


(2) セクハラはあくまでも当事者間の問題だと思う

セクハラはあくまでも当事者間の問題だと思うという考え方は、「そう思わない」が46.0%で「そう思う」(34.0%)を12.0ポイント上回っている。

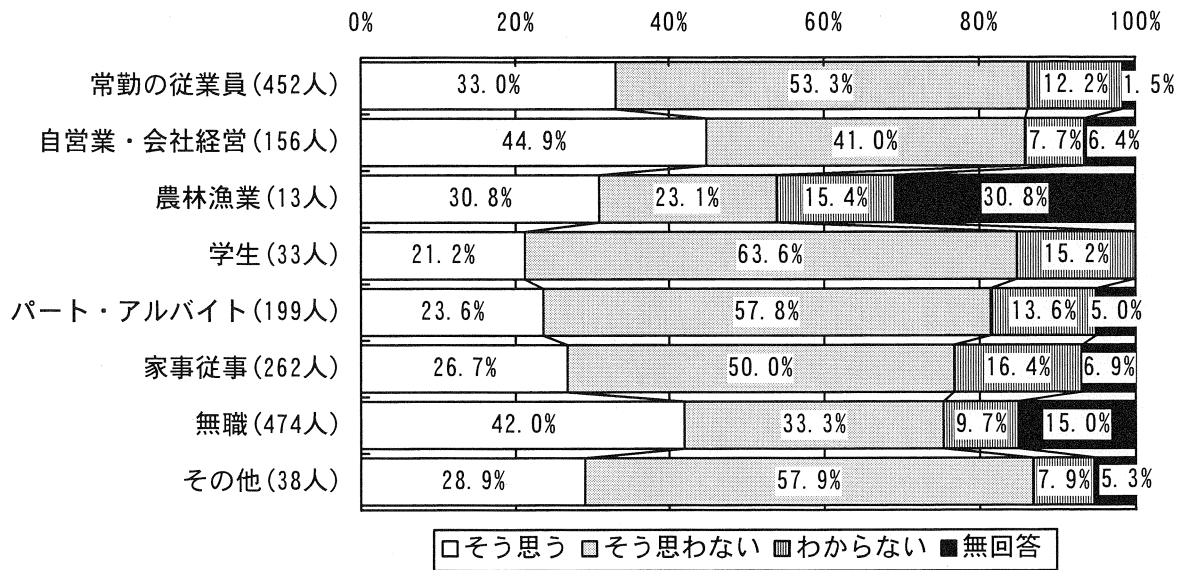
性別でみると、男性は「そう思う」が42.6%、「そう思わない」が40.6%と意見が拮抗しているのに対し、女性は「そう思わない」が50.2%で過半数を超え「そう思う」は28.0%にとどまる。

図 性別 セクハラはあくまでも当事者間の問題だと思う



職業別にみると、「そう思う」は「自営業・会社経営」が44.9%で最も高く、次いで「無職」(42.0%)となっている。「そう思わない」は学生が「63.6%」で最も高く、次いで「パート・アルバイト」(57.8%)となっている。

図 職業別 セクハラはあくまでも当事者間の問題だと思う

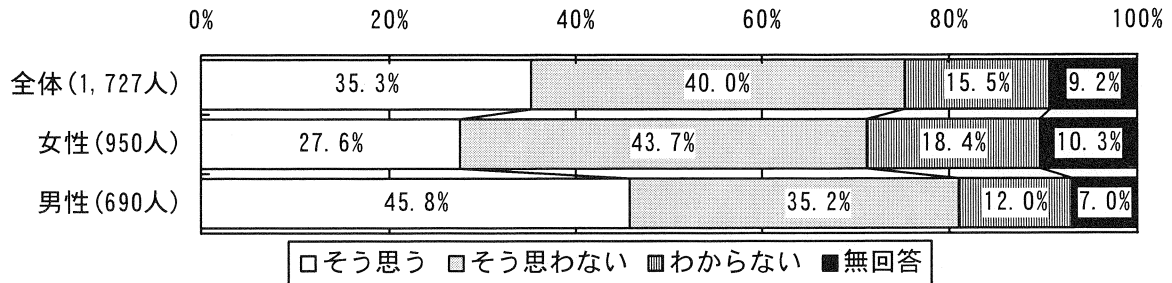


(3) セクハラはマスコミなどの騒ぎすぎだと思う

セクハラはマスコミなどの騒ぎすぎだと思うという考え方は、「そう思わない」が40.0%で「そう思う」(35.3%)を4.7ポイント上回っている。

性別でみると、男性は「そう思う」が45.8%で「そう思わない」(35.2%)を上回っているが、女性は「そう思わない」が43.7%で「そう思う」(27.6%)を上回っている。

図 性別 セクハラはマスコミなどの騒ぎすぎだと思う

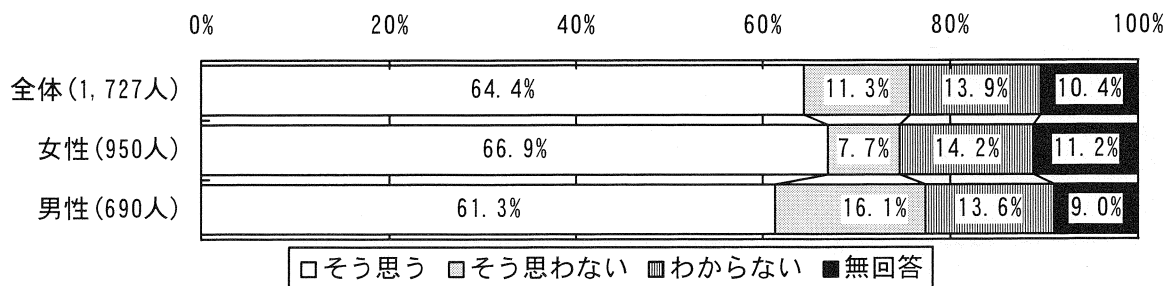


(4) セクハラは女性を対等に扱わない意識を変える必要がある

セクハラは女性を対等に扱わない意識を変える必要があるという考え方は、「そう思う」が64.4%で「そう思わない」(11.3%)を53.1ポイント上回っている。また、「わからない」が13.9%で「そう思わない」を上回っている。

性別でみると、「そう思う」は女性が66.9%で男性(61.3%)を5.6ポイント上回っている。

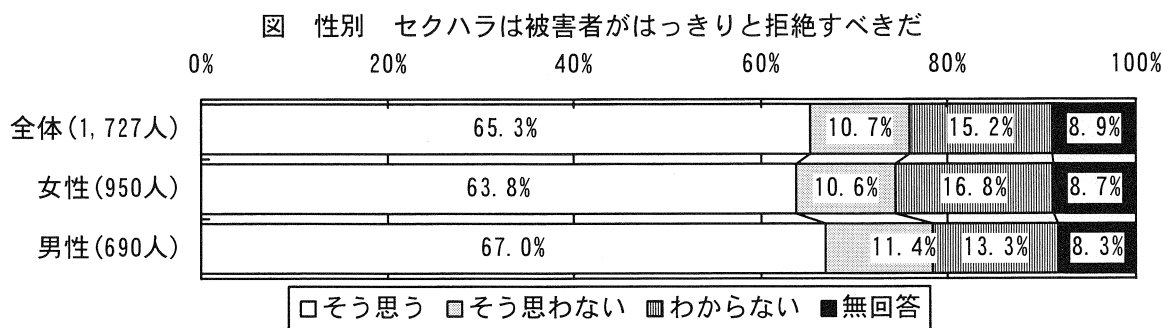
図 性別 セクハラは女性を対等に扱わない意識を変える必要がある



(5) セクハラは被害者がはっきりと拒絶すべきだ

セクハラは被害者がはっきりと拒絶すべきだという考え方は、「そう思う」が 65.3%で「そう思わない」(10.7%)を 54.6 ポイント上回っている。また、「わからない」が 15.2%で「そう思わない」を上回っている。

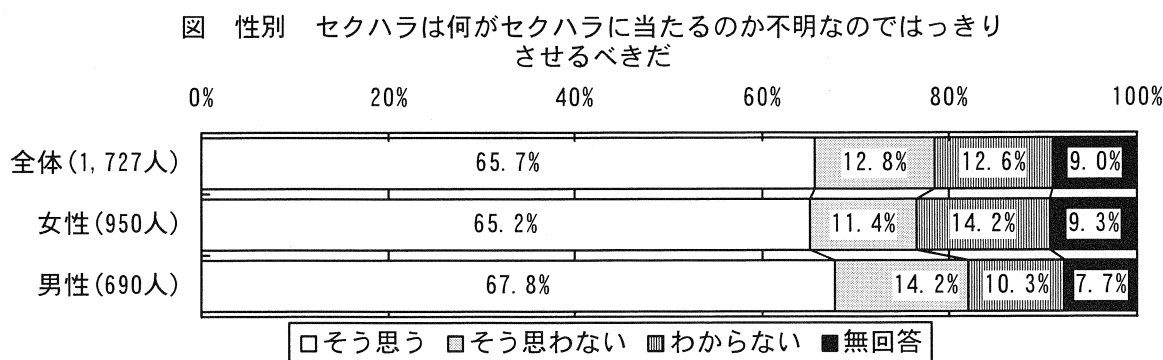
性別で見ると、「そう思う」は男性が 67.0%で女性(63.8%)を 3.2 ポイント上回っている。「わからない」は女性が 16.8%で男性(13.3%)を 3.5 ポイント上回っている。



(6) セクハラは何がセクハラに当たるのか不明なのではっきりさせるべきだ

セクハラは何がセクハラに当たるのか不明なのではっきりさせるべきだという考え方は、「そう思う」が 65.7%で「そう思わない」(12.8%)を 52.9 ポイント上回っている。

性別で見ると、「そう思う」は男性が 67.8%で女性(65.2%)を 2.6 ポイント上回っている。



8-5 行政への期待

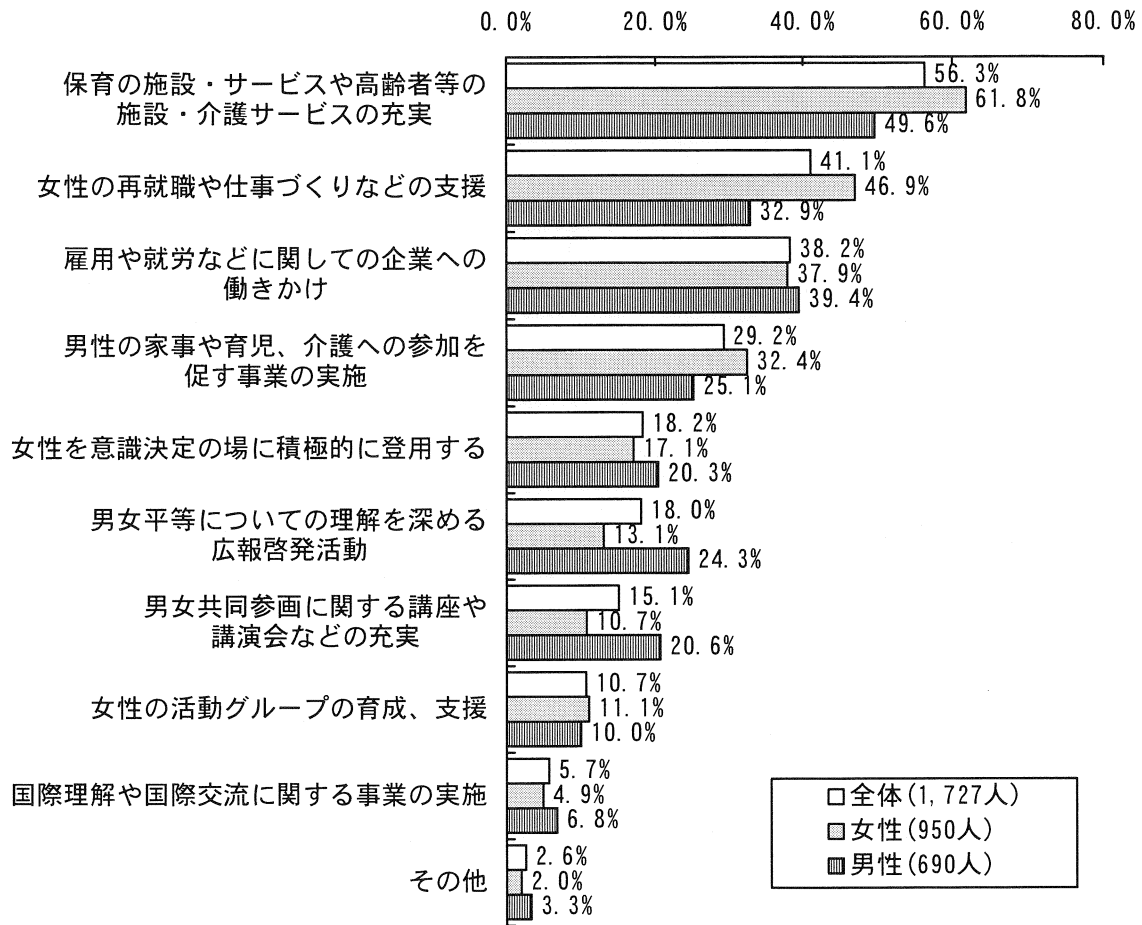
8-5-1 男女共同参画社会の実現のため市が力をいれること

問 39 あなたは男女共同参画社会の実現のために、市がどのようなことに力を入れたらよいと思われますか。【あてはまるもの3つ以内で○】

男女共同参画社会の実現のため市が力をいれることは、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスの充実」が 56.3%で最も多く、次いで「女性の再就職や仕事づくりなどの支援」(41.1%)、「雇用や就労などに関する企業への働きかけ」(38.2%)となっている。

性別で見ると、男女ともに「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスの充実」が最も多く、特に女性が 61.8%で男性(49.6%)を 12.2 ポイント上回っている。次いで、男性では「雇用や就労などに関する企業への働きかけ」(39.4%)となっているが、女性では「女性の再就職や仕事づくりなどの支援」(46.9%)となっている。

図 性別 男女共同参画社会の実現のため市が力をいれること
(3つ以内で複数回答)



年齢別にみると、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスの充実」は「30～39歳」が61.8%で最も高く、次いで「40～49歳」(61.6%)となっている。「女性の再就職や仕事づくりなどの支援」は「40～49歳」が57.1%で最も高く、次いで「20～29歳」(52.5%)となっている。

表 年齢別 男女共同参画社会の実現のため市が力をいれること (3つ以内で複数回答)

	有効回答数	女性を深めるに広つ報い啓発の活理	男性の活動グループの	育性の活動	講座や講演会などの充実	男性の家事や育児、事業介	男性の参加を促す事業介	雇用や就労などに関し	女性に意識決定の場に	女性の再就職や仕事づ	保育の施設・サービス	国際理解や国際交流に	その他
全体	1,727	18.0%	10.7%	15.1%	29.2%	38.2%	18.2%	41.1%	56.3%	5.7%	2.6%		
20～29歳	162	9.9%	8.6%	8.6%	42.0%	44.4%	17.9%	52.5%	57.4%	7.4%	1.9%		
30～39歳	220	9.1%	5.0%	5.9%	40.0%	43.6%	15.9%	51.8%	61.8%	4.5%	3.6%		
40～49歳	245	14.7%	13.5%	9.4%	26.1%	46.9%	18.0%	57.1%	61.6%	4.1%	1.2%		
50～59歳	337	18.7%	10.7%	17.8%	27.0%	45.4%	16.3%	42.4%	54.3%	7.7%	4.2%		
60～64歳	225	20.4%	12.4%	16.9%	32.4%	39.1%	22.2%	34.7%	59.6%	2.7%	3.1%		
65歳以上	451	24.6%	11.5%	21.3%	21.5%	23.9%	19.7%	25.1%	51.2%	6.7%	1.6%		